

WORLD

旅  
ム  
サ  
i  
n  
台  
湾

MMU

2018



# 旅 ム サ

# in 台湾

# 2018

旅するムサビ（旅ムサ）とは、学生が自作品を持参し、小中学校などを訪れ鑑賞の授業やワークショップなどを行う取り組み。  
この冊子は2018年3月に行われた台湾での旅ムサの記録である。

## 目次

三澤一実	……	教職課程研究室教授	……	2
李進士	……	高雄市立福山國小校長	……	6
結城康太郎	……	芸術文化学科研究室非常勤講師	……	8
原田夏美	……	工芸工業デザイン学科1年	……	11
田中沙季	……	油絵学科1年	……	12
リンズーチー	……	視覚伝達デザイン学科2年	……	13
山端健志	……	映像学科2年	……	14
リオン・アシユリー	……	日本画学科1年	……	15
市瀬直人	……	高雄市立福山國小日本語教師	……	16
梁銘順	……	高雄市立大社國小補導主任	……	19
陳瑞榮	……	臺南市立後甲國中校長	……	22
施怡菁	……	臺南市立後甲國中教務主任	……	24
山村風子	……	視覚伝達デザイン学科3年	……	26
藤縄有紀	……	油絵学科版画専攻1年	……	27
山田鮎美	……	基礎デザイン学科2年	……	28
森ゆい	……	油絵学科版画専攻2年	……	29
林晉如	……	高雄市立岡山國小老師	……	30
鄭舒云	……	高雄市桂林國小老師	……	31
王育賢	……	高雄市中庄國小老師	……	32
藏満明翔	……	油絵学科油画専攻1年	……	33
松橋絵菜	……	空間演出デザイン学科2年	……	34
キュウインガ	……	建築学科1年	……	35
三代純平	……	言語文化研究室准教授	……	36
大杉健	……	府中市立若松小学校教諭	……	39



米徳信一・杉浦幸子  
芸術文化学科研究室

「旅するムサビ in 台湾」 2018.3.10 - 3.15

編集 三澤一実

翻訳 市瀬直人・邱筠雅・鄭雅軒・黃浩軒・鄭禹彤

協力 台湾国家教育研究院 亞太地區美感教育研究室

発行 2019.3 旅するムサビ編集委員会

2017年度武蔵野美術大学国際交流助成報告書



# 継続の中で見えてくるもの

三澤一実 教職課程研究室教授

何事も続けてみると見えて来るものがある。挑戦を繰り返す度にこうだろうと思いついていたことや、きつと違いないと決めつけようとしていたことが、それまでの文脈で語れなくなって崩れ落ちることもある。また、それとは逆にあやふやであった仮説が確信となることもある。そのような分りやすい混乱や開眼はそう滅多に無いにしても、あれ、違うかなとか、やはりそうなんだろうな、というようなささやかな発見や気づきは旅と共に毎回生じるものである。

今回の旅するムサビ in 台湾は三年前から日本と台湾の美術教育の違いを考え始めた私にとつて両者の違いを確かめる良い機会となった。三月月後に高雄での日本の美術教育について話しをする機会が控えていることもこの問題意識を持たせるのに大きく関わっている。普段から追い込まれないと動けないぐうたらな性格を、今回の旅は後ろから背中を押してくれたのである。

旅するムサビ in 台湾では、一回目、二回目と、私はプログラムを動かすことに気を取られていたが、三回目の今回はそのような理由から違いを見つけようと頭の隅でぼんやりと考えていた。

それまで数回にわたり台湾が進める美感教育について、国家教育研究院美感教育プロジェクトチームから直接話しを聞いていた。その理念は、台湾の教育全体を俯瞰し、芸術、または表現教科が何を成すべきかという、日本の中央教育審議会の答申のような、教科教育の上位概念と捉えることができる。よって、台湾がその美感教育という理念を受けてどのような教育実践を展開しているかが、日本の美術教育との具体的な比較対象となると考えていた。そして、美感教育を理解するに

は現場の意見が重要な比較の材料として必要だ。私たちが行っている「旅するムサビ」は日本から持ち込んだ鑑賞のプログラムを展開し、授業後に台湾の先生方から意見をもらえる貴重な機会なのである。

## 社会的・歴史的・文化的文脈の中で

今回は台湾科学技術博物館を見学したことも、台湾の授業を考えるひとつの視点を導く事につながった。そこには台湾がどのような過程を経て今日の発展を成し遂げてきたのか、今まで歩んできた一本の道筋が展示されていた。そして今後この道の延長線を切り開いて行くのであろう。日本にしても台湾にしても目指すところは平和で豊かな国であり、そのゴールを目指してお互いに道を作り続けている。よって、教育を考えるには現場の授業、その違いという表面的な出来事のみで語り合うのではなく、そのような社会的・歴史的・文化的文脈の中で理解していく必要があるのだから。

さて、今回の対話型鑑賞授業も今までとさほど変わりなく進んで行った。台湾の子供たちに日本の子ども達との明らかな差異を見つけられるほどの驚きはなかったが、海外から訪れた絵を描く大學生に対する興味は高かったように感じた。福山小學では二回の授業にそれぞれ五〇人ほどの現地の教員が参観した公開授業であったため、子ども



の数よりも教員の数が多いう、彼らにとっては日頃の姿をさらけ出すには到底不可能な状況の中での授業となったが、授業が進むに従い本来もっている無邪気さや人なつっこが見えるようになっていった。授業後には参観者とのふり返りで様々な質問や意見が出て、それに対して応答を行った。通訳を介してのやりとりなので正確には伝わっていないかもしれないが、おおよその雰囲気や、授業に対する考えが理解されたのではないかと感じた。

二日目の後甲中學では参観する教員が少ないないこともあり、また生徒と年齢の近い日本から来た学生に興味を持ってくれたのか、日本の中学生に比べオープンで積極的な姿を感じた。

どこまで子供たちに委ねるか

台湾も日本もこれからさらに進む情報テクノロジーや人工知能により社会全体が未知の領域に踏み込んでいく。その変わりゆく社会に対してどのように対応して行くかが教育の大きな課題となっている。一方で、テクノロジーへの対応だけではなく、未来を豊かに創り出すイノベーション、すなわち新たな価値や意味を創造しようとするチカラの育成にも注力している。

さて、そのような中、造形美術教育の目標は両国ともさほど差異はないが、その手法は歴史や文化の文脈の違いによって少し異なっていると感じる。子供たちに何をどのように教えて、何を育てるのか。

日本の美術教育は「感性」を働かせて子

小孩之間太大的差異，但能感受到他們對於帶著自己的作品來訪的外國大學生有著相當的興趣。福山國小的兩次授課均有五十名當地的教師旁觀，產生了教師比學生還要多的現象。在這種狀況下孩子們當然無法表現出平常上課的樣子，但依舊乖巧地跟著流程上課，並清楚的感受到了他們的純真與親近感。

在福山國小討論會上，許多教師提出了各式各樣的問題，而我也一一回覆。即便中間隔著翻譯，我們想說的話可能無法完整傳達給對方，但我仍然感受到了教師們對這場公開教學的熱忱以及對於這種新式教育的想法。

在後甲國中時，可能是觀摩的教師相對的比較少，也可能是國中生與大學生的年齡比較相近而感興趣，竟然讓我看到了比日本的國中生更開放積極的一面。

能放手交給孩子們到什麼程度

台灣和日本的社會都將進入充滿情報科技和人工智能的未知的領域。「如何面對這樣瞬息萬變的社會」成了教育上最大的任務。不僅是面臨科技進步的應對，更該致力於培養孩子們在未來裡創造豐富的革新，即是創造新的價值以及意義的能力。

在兩國之間的造型美術教育的目標可說非常相近，但作法上還是會因為歷史文化等背景上的差距而有所異同。我們該教什麼給孩子們？怎麼教？培養的是什麼？

日本的美術教育可說是最大化的尊重

供たち自身がつくり出す「意味」や「価値」を最大限尊重しようとしている。よって美術教育では、教師の価値観の押しつけを極力抑え、子供たち自身の思考や判断に任せ活動を展開しようとしている。

私たちが取り組んでいる旅するムサビの対話型鑑賞もそのような感性を育む取り組みである。次々に生まれてくるテクノロジーに対して、対応できる技術の習得を急ぐか、それとも人間としての根源的な感性を育むのか、この課題は背反の課題ではないが、どちらに比重を置くかが国によって少し異なる気がするのである。

## 持續下所能見到的事物

不管做什麼事情都會有持續下去後變得能看見的事物。有時在反覆挑戰之下，深信不疑的事物，也都會變得無法自圓其說。有時反而兒證實了一開始模稜兩可的假設。就算得到的不是這麼極端的答案，「奇怪，不該是這樣的啊」「果然如此啊」這樣的小發現是隨著旅行每次都會發生的。

對於三年前就開始思考著台灣與日本的美術教育的異同的我來說，這次的武藏美行旅是一個很好的機會。三個月後有幸能夠在高雄分享日本的美術教育的活動也和這個困擾我許久的問題大有相關。也多虧了這趟旅行在背後推了平常不太積極的我一把，給予我向前的動力。

武藏美行旅到台灣的第一年跟第二年期間我致力於推動這個企劃，第三年的



來子們在自己的「感性」中找到的「意義」和「價值」。因此，我們的美術教育極力地防止教師將自己的價值觀強加在孩子身上，往往依著孩子們自己的想法與判斷進行活動。

武藏美行旅的對話型鑑賞也是屬於為了培養孩子們感性的活動。面對日新月異的科技，我們到底該急於讓孩子們習取其技術？抑或培養作為人類根本的感性？這兩個任務雖然不互相衝突，但這兩類教育之間的比例似乎因國家而不盡相同。

(三澤一實 教職課程研究室教授)

這次，我試著從其他角度來帶領這個活動。

在此之前曾有幸從國家教育研究院美感教育企劃團隊那裡直接了解關於在台灣推動的的美感教育。其理念可以說是俯視台灣的教育整體，探討藝術和表演科目成就了學生的什麼。這和日前日本中央教育審議會的報告有異曲同工之妙，可以說是將學科教育視為上位概念。以此，我將「台灣在美感教育的推廣下之實踐」作為日本美術教育的具體比較對象。而對於理解美感教育的我來說，現場的意見成為非常重要的材料。

於是企劃整體演變成我方以武藏美行旅的身份帶來來自日本的鑑賞課程，並在這場公開教學結束後聽取台灣各教師們的意見，實屬難得的機會。

社會上・歷史上・文化上的背景之中

這次參觀的台灣科技博物館也讓我們擁有了新的視角來思索台灣的教育。在那裡，我們看到了台灣的編年史，描繪著台灣是經歷了哪些過程才逐漸變成了現在的台灣，並在延長線上預測著今後的發展。不管是日本還是台灣，追求的都是豐饒太平的國家，各自為了這個目標前進而鋪路。所以我認為，談論教育的時候不應該只看教育現場的表面上的異同，應該要好好地理解雙方的社會上・歷史上・文化上的背景。

話又說回來，這次的對話型鑑賞教學和至今為止的流程沒有太大的改變。雖然從台灣小孩的身上並沒有看到與日本



感動狗1 台灣南鄉51 校兒童彩繪特展「ZODIAC DOG」, 高雄市立美術館



# 武藏野藝術欣賞教學



## 開啟美的視窗

高雄市福山國小校長 李進士

2018年3月12日武藏野大學師生一行來到高雄市福山國小公開授課，這是一場非常特別的教學課程，所以我認為不應只有我們師生受益，而決定開放給全高雄市國中小學教師，果然如預期，一下子就秒殺額滿，可見這課程的吸引力。

此次「對話式鑑賞」教學活動，武藏野美術大學遠從日本攜帶原作，並以分組的方式引領孩子欣賞現場各類作品，再讓孩子們將想法、感受說出，接著孩子和原創作者共同討論作品。孩子們的參與度非常高，也樂於發表分享，反應相當熱烈，是一場精彩的藝術欣賞課程。從學生方面看，有幾點值得台灣來學習，透過引導讓孩子自己去感受藝術品所傳遞的訊息，孩子很熱烈地把自己心中的想法表達出來，最後再由創作者與欣賞者直接對話，做最後的統整與歸納，這是非常棒的互動模式，從孩子的表情中可以清楚看到，這樣的課程孩子是感興趣的，孩子的感受是多元的，沒有標準答案的框架，學習似乎是更加自由無束。

從老師的角度看這場教學，報名一下子額滿，代表老師們對新知與新的教學樣態是充滿期待與動力的，公開教學完畢與三澤教授的互動提問，更是茅塞頓開，孩子為中心，



一直是教學的根本，國內外皆然，對教學過程策略的運用，透過說明更加豁然開朗。

藝術欣賞是藝術教學重要的課程，是培養新國民對美的感知很重要的手段，這次武藏野大學帶給我們孩子的課程模式，正可以讓我們省思參考，透過教學歷程讓孩子從自己的生活經驗中去想像、整理，並說出自己的想法，再透過自己五感體驗對創作作品產生連結，試圖去了解作者的創作心境，最後透過作者詮釋，去理解主觀與客觀之間的關係。這互動過程中，我發現雖有翻譯隨側，但共鳴與討論已超越了語言的藩籬，最重要的是孩子能主動去探索創作者的內心世界。

羅丹說：「生活中不缺少美，而是缺少發現」，藝術欣賞課程正是要開啟孩子發現的眼，透過思辨將美的感知成為素養帶到生活中去實踐。此次武藏野美術大學師生能將資源帶到福山國小，並與全高雄市老師分享，從孩子開心的笑臉與熱烈的討論可知，原來欣賞可以從生活、從想像：嘗試去了解，從老師的回饋也能清楚明白，這樣的藝術種子將會回到校園中去擴散、繁衍……。謝謝武藏野大學的一小步，這將開啟師生們美的視窗，讓孩子跟藝術無距離。

術を子供の身近なものにしてきて、ありがとうございます。

(高雄市福山小学校校長 李進士)



## 武藏野美術大学美術鑑賞授業 — 美への扉を開ける —

2018年3月12日武藏野大学の教員と学生が高雄市福山小学校にお越しになって公開授業が行われました。これは特別なカリキュラムであるため、当校の教員生徒だけが恩恵に預かるだけではなく、高雄市の全小中学校の教員に公開することを決めました。その結果予想通りすぐに申し込みが殺到して、この授業の魅力が浮き彫りになりました。

今回の「対話式鑑賞」授業は、武藏野美術大学が日本から遠路はるばる絵画や映像作品を持参しました。小班に分かれた子供を作品の前に連れてきてその子の考えや感じ方を述べてもらいます。その後で子供と作者が作品について語り合いました。

子供たちの参加意欲はとても高く、楽しく発表し合い、かなり熱心な反応でした。すばらしい芸術鑑賞カリキュラムでした。

大学生側から見ると、台湾まで来て学習することに意義がいくつかありました。芸術作品から伝わってくる情報を子供たちが自分で感じ取るように導き、子供たちが熱心に自分の考えを表現する。最後に作者との直接対話を通してまとめます。これは素晴らしいコミュニケーション方法であることが、子供たちの表情からはつきりと見て取れます。このようなカリキュラムに子供は興味を持ちます。子供の感じ方はひとつではなく、型にはまった標準の答えはありません。学習とは自由に縛りがないようなものです。

教師からの視点では、申し込みがすぐに満員になったことが、教員が新しい授業のあり方やエネルギーへの期待にあふれていることを物語っています。公開授業が終わって三澤教授との質疑応答では、まさに目から鱗が落ちました。授業とは子供のためであることが根本であり、国の内外を問わず、カリキュラムへの戦略に対する視野がパツと広がりました。

芸術鑑賞は重要なカリキュラムであり、新しい国民の美的感覚を養う重要な手段です。今回武藏野美術大学が持ち込んだ授業

方式はまさに私たちに振り返って考えさせるものであり、授業を通して子供が生活から想像して自分の考えを整理して述べる、さらに自分の五感から作品との結びつきを生みだします。作者の創作活動の心境を理解するべく、最後に作者の話しによって主観と客観の関係を理解する。この活動で私は通訳も超えて言葉の壁を乗り越えられることを発見しました。もともと大切なのは子供が自分から作者のこのころの世界に入っていくことです。

ロダンは言いました。「美はどこにもある。ただ、美を発見する眼が欠けているのです。」芸術鑑賞のカリキュラムは正に子供の発見する眼を開くものです。鑑賞活動を通して美的感覚を生活に持ち込み実践に至る。

今回、武藏野美術大学はそのリソースを福山小学校にもたらしました。全高雄市の教員と共有します。鑑賞は生活からということが、子供の楽しそうな笑顔と議論から理解できます。教員からのフィードバックでもはつきりしています。私たちはこのような芸術の種を学内に撒いて広がります。

私たち教員の視野を広げてくれて、武藏野美術大学よ、ありがとうございます。

# 作者の制作意図には興味を持ちながら、お互いが理解しきれない空白部分を残しておいてくれる

結城康太朗 芸術文化研究室非常勤講師

「武蔵野美術大学の油絵学科の出身で、芸術文化と共通絵画の非常勤講師の結城康太朗です。三〇歳から二〇年間、アルミ板にアクリル絵の具で描く絵画作品を制作しています。今回はそれらの作品を持参して、皆さんに同行させていただきます。」という素っ気ない自己紹介文を慣れない手つきで送信したところから、旅ムサ台湾との関わりがスタートしました。間接的に自分の年齢を伝えられたんだなあと、一人納得した後で、アルミ板を支持体にして二〇年間も描いてきたんだと改めて気づいたのが最初の驚きでした。

今回の私の役割は、中堅の画家として、絵画美術の教員として、自分の作品を持参し学生と同じ立場でこのプロジェクトに参加するというものでした。

高雄の福山小学校で、学生のファシリテーターから作者として紹介された私は、「パッと観て、何が描いてあるのか分かる答え合わせのようになってしまう。せっかくの鑑賞授業を一方向に引っ張りすぎてしまうのだろう。結局、後半は「こういう色が好きなんだ」「動作を大きくして描くのが好きなんです」というように、好きだから、くが好きなんです、と困っているくせにポジティブな発言をして童心に帰るという思いでした。

小学生たちは、画面に色が不定形で登場してくることを許してくれるんだ。明解なストーリーを説明して欲しい訳じゃないんだ。作者の制作意図には興味を持ちながら、お互いが理解しきれない空白部分を残しておいてくれるんだ。それは私にとつての大きな気づきでした。

絵を描いている者として自覚していることは、自作を鑑賞する場合には力みがある状態で、他者の作品を鑑賞する時にもある種の構えがあります。何も考えずにボーッと作品を眺める経験は少ないことです。鑑賞する中から好きな言葉を引っ張り出す。その為の手伝いをする人が居る。新鮮なことでした。

言葉が出てこない経験、美術に対する知識が少しあることによるズレが、スピード感を奪っていく。思いついたことを素直に言葉にしていくことが出来ない。初日の貴重な体験でした。

次の日、台南の後甲国中学校で感じたこ

「ない、こういう絵もあるんですよ。」としやべり始めました。通訳さんを通すことで、しゃべる内容だけでなく、スピード、音量、どこで区切る

いのか分からない。使い慣れている美術用語で説明すれば、通訳さんを困らせるだろうことには気づいているし、絵の中身を解説すれば作者によ



とは、質問が専門的になってくること。生徒たちの興味の対象が多様化していること。それにより好みの項目とそうでない項目との関わりに当然ながら差が出てくること。そして、真面目に真剣に取り組む時間と、ユーモアを持ち込み少しふざけた時間も作ることが出来ることなど。

一つの小学校と一つの中学校の対比で簡単に解釈してしまつてよいものか迷いはありますが、こちらの年齢に近づいて来てく



れているせいか、私が一日だけ経験を積んだためか、スピードに慣れて言葉にしやすくなっていました。

絵具を使わない状態で美大生と接することのない私にとっては、実技時間中のノンビリとした取り組みとは違う学生達のしつかりとした態度も驚きでした。

旅ムサ台湾の学生は色々気づいただろうし、高雄の小学生も台南の中学生もいっぱい気づいたと思う。みんなが何を気づいたのか、想像しても答えを探さなくんないんだというのが、最大の気づきでした。

## 「所發現之事」

「我是結城康太郎，本校油畫科出身，藝術文化與共通繪畫的外聘講師。從三十歲以來用壓克力顏料在鋁板上作畫了二十年。這次我將帶著這些作品與各位同行。」僵硬的發送了這段自我介紹之後開始了這我與武藏美行旅的互動。思忖著這麼一來就能間接地表達自己的年齡的同時，再次驚訝於原來自己已經在名為鋁板的畫布上畫了二十年之久。

我這次的身份除了擁有一定資歷的畫家、教導繪畫技巧的老師，更是和學生們一樣拿著自己的作品參加這場企劃的

一員。

在高雄的福山國小，被引導者的學生以作者的身份被介紹的我以「這世界上也是存在著這種、乍看之下什麼都看不懂的畫嘍。」為開場白，開始了和學生的互動。

一想到自己說的話需要被翻譯，除了說話的內容以外我開始擔心自己的語速和音量甚至是斷句，導致了自己開始語無倫次。當我意識到小學生充滿魅力的發言已經以超越了我的感性的當下，什麼也回答不了。

使用平常用慣的美術用語的話可能會使翻譯人員困擾；解釋畫作的內容的話又好像是在對答案一樣。難得的鑑賞課這樣限制學生們的想法真的好嗎？煩惱到最後我所說的內容變成「我喜歡這樣的顏色」「我喜歡用誇張的動作來畫圖」等等強調自己的喜好的樂觀發言，試圖回歸童心。

小學生能夠允許畫布上的顏色以不規則的形狀登場。對他們來說，並不一定要用明確的故事來解釋。對作者的創作理念抱持興趣並保留著彼此間無法完全了解的空白。這對我來說是一個大發現。鑑賞自己的作品的時候是在充滿張力的狀態下，而鑑賞別人的作品時需要些架勢。這是作為從事繪畫的人的自覺。我自己正在鑑賞的時候，很少有看著作品出神的經驗。

鑑賞的時候將喜歡的字句挑出來。為了這件事甚至還有專人從旁協助。對我來說是一件很新鮮的事。

美術知識量上的差距使我找不到能夠解釋的字句，交談也逐漸滯塞。

無法順利道出自己想說的話語。這是在第一天得到的珍貴的體驗。

翌日在台灣後甲國中所得到的事，學生們的發問變得具有專業性，以及學生們感到興趣的對象的多樣化。感興趣的範圍變廣，理所當然的也有了隨著喜好不同而產生的溫度差。我也逐漸掌握了如何分配認真鑑賞和輕鬆幽默的時間比例。

一邊是國小的案例一邊是國中的案例，我也猶豫過這麼拿兩者的不同之處來做簡單的解釋是否適當。或許是因為國中生比較成熟，又或許是已經有了第一天的經驗，我在第二天變得能夠習慣對話的速度並順利地闡述自己的想法。

對於只在實技課上與美大生接觸過的我來說，學生們認真的態度和實技課中悠閒的氛圍大相徑庭使我吃驚。

我相信參加武藏美行旅的大學生們有許多自己的發現，高雄的小學生和台南的國中生們也有很多自己的發現。而我最大的發現應該是，我們能盡情的想像大家分別發現到了些什麼，卻不用尋找正確答案這件事。

(結城康太郎 藝術文化研究室非常任講師)

## その時私がファシリテーションした作品は

原田夏実 工業工芸デザイン学科一年

私は今回初めての台湾で初めて旅するムサビに参加した。台湾に行く前は不安が大きかったが、台湾に着くと温暖な気候に励まされるようにスッキリとした気分になった。

台湾の小学校でファシリテーターとして現地の小学生と対話型鑑賞をした。その時私がファシリテーションした作品はアルミ板に描かれた抽象的な作品だった。わたしは最初に「どんな絵に見える？」と質問した。すると、ある児童は赤い部分が花に見えると言い、別の児童は太陽だと言った。

それぞれに意見を持ちながらも共感している部分もあった。水色の部分は全員川に見えると言うので、どこか水色のことかと質問すると全員が同じ場所を指差し、「あそこだよ。」と言っていた。もともと意見が分かれたのは黄色い部分だ。花と川があるから太陽の光だと言う児童もいれば、鳳凰だと言う児童、キリンだと言う児童もいた。

その児童の言うキリンが私の想像するキリンとあまりにも違っていて通訳の方に聞くと、古代中国神話に出てくるキリンは首の長くない毛が生えた獣で良い存在だと教えてくれた。子どもたちは何を描いている絵なのか興味を示しているようだった。子どもたちにとって抽象画は難しいのではないかと考えていたが、現地の子どもたちは素直に疑問をぶつけてくれた。子どもたちは、なぜわからないものを描いているのか疑問に思っていた。作家の方が抽象的な表現について「何かこれを描こう！」と決めて

描いている訳ではない。」とお話をされると児童は納得していない表情をしていた。そのため「質問はありますか？」と言うと何を描いているのか、何で形を決めて描かないのか、そもそもアルミはどんなものなのか等たくさん質問が出た。その時、私は現地の子どもたちの素直で堂々と質問する姿勢に感動した。

## 在

台湾の小學，我擔任對話型鑑賞的引導人，與當地的小學生進行了對話型鑑賞。當時，我引導的鑑賞作品是在畫

在鋁板上的抽象畫。在一開始的時候，我問了小學生們「你們這幅畫看起來像什麼呢？」。然後，有一個小朋友說紅色的部份看起來像花，其他的小朋友說像太陽。有些分別有不同的意見，當然也有相同感受的部分。因為大家都覺得水藍色的地方看起來像是河川，問了小朋友們「是哪裡的水藍色像河川呢？」，大家都指向同一個地方說「是那邊啊！」。大家的意見最分歧的地方是黄色的部分，像是有些小朋友說，因為有花跟河川所以黄色的部分是大太陽。也有些小朋友說是鳳凰，更有小朋友說是「麒麟」。

那位小朋友所說的「麒麟」跟我想像中的「長頸鹿」落差蠻大的，跟口譯人員確認過後，他告訴我，在中國的古代神話中登場的「麒麟」是脖子不長，身上有長毛，代表吉祥的神獸。小朋友們表現出了對作品的好奇

心。雖然我曾經思考過，對小朋友們來說抽象畫是不是太難了，但當地的小朋友很單純直接的提出他們的疑問。他們覺得，為什麼要畫一個不知道是什麼的東西。對於作品中的抽象表現，創作者本人表示說「不是想著說要畫這個而去畫的」，聽了作家的回答後，小朋友表現出困惑、不了解的表情。因為這樣所以問了小朋友們「有什麼想問的嗎？」，然後大家紛紛提出疑問「作品裡畫了什麼？」「為什麼不畫想好的東西？」「鋁板到底是什麼？」。當下我看到小朋友單純直接地提出他們的疑問的態度，覺得很感動。

(原田夏実 工業工芸設計學科一年級)



## 「對話する」とは、どうなることか

田中沙季 油絵学科油絵専攻一年

日本における、同質のコミュニティ内の生活では、誰もが自分の言葉や考えは当然のように伝わっていると思いがちであり、わざわざ「伝える」ことを意識する場面は少ない。

国と言語を飛び越えた今回の旅ムサでは、「伝える」「受け取る」という行為の脆さ、曖昧さ、そしてそのおもしろさを実感することができた。



今回、鍵となったのはやはり通訳者の存在だ。

一般的な通訳で重要なのは、話者が発する言葉の「意味」だ。通訳者は話者の意見から要点を見つけ、その意味を訳して伝える。

一方、コミュニケーションの要素を含む対話型鑑賞においては、「訊き返す」とや、「出た意見をリピートするタイムミンク」など、「単語以外に含まれるニュアンス」もより重要になる。話者が発した語彙の意識に加え、本来ならそのような細部の情報も相手に伝わるべきなのだが、その多くは翻訳が難しく、言語の壁に弾き落とされてしまう。

子どもたちは私が話した内容をそのまま受けとめることは無く、私の言葉を聞いた通訳者が選び取って意識した内容を私の言葉として受け取った。子どもたちも私に何か訊きたい時、通訳者に疑問点を渡し、訳して伝えられるのを待った。当然そこには情報欠落があっただろう。

誰もが、お互いに伝えようとしていることは感じていた。しかしその内容を受け止めるには、言語に頼りすぎているがゆえに、通訳を待つことや、わずかな共通項である漢字や英語を用いるしかなかった。

それはとても不自由な対話だった。だからこそ、誰もが自分の考えを伝えることに真剣だった。

日本でおこなう鑑賞授業であれば、共通

## 台湾と日本の両方の反応を見た と思った

リンズーチー 視覚伝達デザイン学科二年

私は昨年、編入試験を受けて武蔵美に入りました。そこで「旅するムサビプロジェクト」のパンフレットをもらい説明会に参加しました。そして、夏休みに行う北海道訓子府町の旅ムサに申し込みました。訓子府町では小学校の子供たちと対話して自分の作品を紹介しました。普段自分の作品を見せるのは恥ずかしく、あまり人前に作品を出すことがなかったのですが、自分の作品を見せられるようになりました。自分の作品を紹介しながら質問したり、鑑賞者の感想を聞いて想像力を喚起しながらコミュニケーションすることで会話が成立し、その中で、子供と作者がお互いに考えて、自分では気づかない事や考えた事がない事を見つけれられて勉強になります。

今回の旅ムサin台湾は私にとって二回目の参加でした。台湾出身の私は当然直ぐ申し込みました。自分の国で、自分の言葉で子供達に作品を紹介するのはすごく楽しみ。そのような気持ちで高雄に着きました。実際にやってみたら日本と台湾の子供の違いを強く感じました。前回の北海道の小学校の子供たちは皆んな真剣に聞いてくれましたが、あまり質問をしてこなかったのですが、台湾の子供たちはボジティブに質問を繰り返して、少しびびりました。

持参した作品は前回と同じで、「日本で留学した時の生活日記」です。台湾と日本の両方の反応を見たいと思っ同じ作品を選びました。台湾と日本の生活で発見したり、経験したりした面白いと感じたこと、日本に度々訪れた中で気づいたことを台湾と比較しながら絵日記にしました。日本と台湾の人がお互いのことを知るツールになればと思いつながら制作しました。

旅ムサの活動では、美術の楽しさや多様性を子どもたちに伝えられると共に、私たち自身のコミュニケーション能力やファシリテーション能力も上がり、作品へのアドバイスも貰いインスピレーションを受けました。

## 去

年、我通過了武蔵野美術大學的編入考試進而入學。然後我拿到了一份「旅行武蔵美專案計畫」的文宣，並參加了說明會。然後申請參加暑假在北海道訓子府町的旅行武蔵美。在訓子府町的小學與當地的小朋友們對話、介紹了自己的作品。雖然平常對於給別人看自己的作品是感到害羞的，也不太在人們的面前展示自己的作品，但是我覺得能分享自己的作品了。一邊介紹自己的作品一邊提出問題，然後聽取鑑賞者的意見並喚起他們的想像力的交流行為，對話成立後，在這之中孩子跟創作者互相思考，進而可以發現到自己沒有注意到的部分或沒有想過的事，然後變成一種學習。

去

の言語のもと、小さなつぶやきさえも相手に直接届く。しかし今回はどれだけ言葉を選んで、言語の変換を挟むために、発した言葉の情報全てをそのままに届けることは不可能だった。

しかしそこには、双方が共通して理解しやすい場所を選んで対話しようとする、コミュニケーションのおもしろさがあった。「伝える」ことを意識して、対話をする。「伝えようとしている」ことを感じ、受け取るための姿勢をとる。これが、今回の対話型鑑賞の大きなポイントだったのではないかと私は思う。

## 在

在日常生活中總是充滿同質性的對話，自己的話語與想法也理所單然的直截表達，鮮少有「正在表達」的意識。這次的跨越國境與言語阻礙的旅程，讓我真實感受到「表達」與「接收」的脆弱與曖昧，並在其中享受它的樂趣。

對話型觀賞的關鍵，很顯然地在於翻譯者。「翻譯」最重要的是，話者所要表達的意思。翻譯者透過找出話中重點，將其轉化成其他語言。然而於對話型觀賞而言，將聽眾聽後的反饋、適時性的回覆給話者尤其重要。經常可以體驗到，明明很想表達的作品細節或抽象想法，因為語言不同產生隔閡。學生們並不是直接接收話者表達的內容，而是經由翻譯者消化後產生出的資訊。此外，學生們亦經由翻譯者的橋樑，將問題傳達給

這次的旅行武蔵美in台湾對我來說是第二次參加的旅行武蔵美專案計畫。身為台灣人的我理所當然的馬上申請參加了。非常期待在自己的國家，用自己的語言向小朋友們介紹作品這件事。懷著這樣的心情到了高雄，實際地做了之後感受到日本和台灣小朋友之間的差異。第一次參加的北海道小學的小朋友們雖然很認真的聽了內容，但是提問卻不大踴躍。反觀台灣的小朋友們很積極的一直發問，讓我感到有點驚訝。

我帶的作品是跟上一回一樣「在日本留學時的生活日記」。因為想看台灣跟日本兩地小朋友的反應所以選了同伴作品。作品的內容是，是在台灣跟在日本的生活中，發現到以及經驗到有趣的事，以及在數次訪日的過程中注意到的事跟台灣邊做比較所製成的繪畫



我，這樣的過程中，也必然會產生些落差。過程中，大家互相幫忙翻譯補充。然而接收內容時，還是感受到語言的過度依賴性，須要等待譯者解釋，或把握僅有的、共通理解的英文及漢字。

在日本進行對話型觀賞時，即便是學生的竊竊私語都可以瞬間理解。相對的，這次的活動特別能感受到，哪些資訊被選擇了，再透過語言轉換的窄門，讓接收方吸收。說話者想說的內容，變得不可能完整呈現。然而也正因為如此，在彼此能容易理解的环境下，努力進行對話顯得特別有趣。

「傳達」這件事，突然成為有意識性的對話。充分感受「想傳達」的滋味，並努力汲取資訊接受。這不就是這次活動，學習到最重要的事嗎？

聊天室對話結束  
輸入訊息……  
(田中沙季 油畫學科一年級)

日記。是懷著如果這個作品能變成日本人和台灣人知己知彼的工具的想法，而製作成的作品。

在旅行武蔵美的活動中，能向孩子們傳達了美術的樂趣和多樣性，伴隨著的是我們自身的溝通能力和引導能力也會提高，也能接收到對於自己作品的意見並得到一些靈感。

(林子琦 視覚伝達設計學科二年)





## なんて贅沢なんだろう

山端健志 映像学科二年

國家教育研究院でのディスカッション時、最後に五美大展の写真が映し出された。母国の展示を異国で知る。これは美術が繋げたのだと急に感じ、美術そのものに対して感動し、涙が止まらなくなった。美術はヒトの心をつくり、原動力ともなる。そして社会をつなげていく。繋ぎ手ではないだろうか。その美術を学んでいる以上、もっと知りたい。

美術はさほど遠くはない。常に一緒にいる皮膚と思えばよい。

「やあ！暑いね！」そんな関係でも良いのではないだろうか。もっとデレデレしたいし、させたい。

今回の対話型鑑賞に出品された作品には映像、絵画、本など多種多様だ。なかには教室の机の上に作品を、周囲に小道具を設置し空間を含めた全体を作品とするものも

## 「二つ」を「一つ」に

リオン・アシユリー 日本画絵学科一年

武蔵野美術大学に入ってから参加した企画では大抵通訳の仕事をするようになる。三ヶ国語が喋れる身だから、それはやむを得ないと受け入れた。今回の「旅するムサビ in 台湾」に参加することを決めた時も、絶対なんらかの形で通訳の仕事をするという最

初から予測していた。台湾に行く前、ずっと作者としての自分で悩んでいた。何のために絵を描いて、何のために制作するだろうと答えを求めていた。今まで作ってきた作品はどれも自分のためのもので、鑑賞する側のことを考えて



見受けられた。この作品を通じて【作品・空間・相手】この三つが揃うと作品はより一層際立つのだと学んだ。これは参加学生にとって強い武器になったのではないだろうか。

滞在中は学生メンバーは私を含め緊張していたように視えた。プロジェクトに対しての緊張もあるが、何よりも同じ学生に対して緊張していたのではないか。ほぼ初対面にも関わらず、約一週間異国で共に挑戦する。互いに話し合うことで自分自身を客観視できたのではないか。今回の旅ムサ台湾に関与したすべての人々が、何かしらの出発点を得たならば、リーダーとしての役割は十分果たされたと思う。そう思えるようになったのは通訳を担った現地の学生、留学生の活躍のおかげである。

「ゆっくり言おう」「専門用語を避けよう」など、我々が考える配慮を尽くしたが、通訳の大変さを共感できなかった。我々は現地の言葉で挨拶ぐらいいしか言えなかった。事前にプログラムで必要な言葉を学んで練習していれば、通訳さんたちの負担を減ら



いなかった。そうしないと自分を揺るがし、自分の核にまで届く作品が作れないと信じていた。でも、絵があるならそれを鑑賞する者もあつてはならないし、自分のためにしか制作しないと信じて、作品を公開する時点でその信念も偽りと化すだろう。

台湾では通訳を通してファシリテーションや作品の説明などをしていて、日本語で説明できたものも中国語では説明できないことに気づいた。そのせいか、自分が上手に作品の説明ができないことに気づいてしまった。授業の間、私は常に作者の意思を忠実に伝えようとしていた。伝えられなかったらそれは生徒達と作者に対して失礼で、なによりも通訳者が作者の言葉を代弁して伝えないと誰が伝えるだろうか。日本に戻ってから通訳者の役割を果たしたかどうかが疑わしく思った。

それでも、作品を鑑賞していた生徒達の姿を思い出すと、自己満足の為に描いた作品が生徒達の絵画に対する考えを徐々に変えていく様子が見える気がする。人を揺るがすのはもつと偉い人達が描いたもつと力のある作品だと信じていて、自分の作品に少しでもそのような力があるなんて、今でも信じ難い。ただ、作品が作者と鑑賞者を結びつけるには言葉や国境を超えた普遍的な何かが必要だと知った。

自分がこの企画に参加した意味を、日本に戻ってから探し求めていた。これから自分のために制作し続けたいが、作品の

せれたのではないか。次に活かしたい。

これらを通じて、やはり対話（コミュニケーション）は大切だと改めて認識した。対話は自分を客観視することができる気がついた。

台湾ではよく円卓が出た。みんなで食事を囲って、互いの顔も見ながら食事を摂るというコミュニケーションの大切さそのものを表していると感じた。

挙げるとキリがないぐらい今回もたくさん勉強になった。次は何に出会えるのか。出会うまでに先ずはもつと対話しようと思

## 怎

麼會如此的感動與感激！在國家教育研究院進行研討會時最後、竟然放映出了五美大展的照片！知道自己國家的展示在異國被人所知，瞬間能感覺到這是美術的連接性。讓我頓時感動的快哭了！美術造就了人類的心，成為我們的動力並與社會聯繫。美術難道不是其中的連接點嗎。目前正在學的也是那美術，但我還想要了解更多關於美術的一切。美術並沒有這麼遙遠，把它想像成好比是我們的皮膚一樣，屬於身體的一部分，那種直接去感受而產生「好熱阿」這種自然而然的感覺也好。想輕鬆無拘束地去創作，也想把它變得更加自然。

在對話型鑑賞中，出展的有像影片、繪畫、書等各式各樣的作品。在這之中，有一個放在教室裡書桌上，並且被小道具包圍起來的這種全體性作品。真的讓我大開眼界！透過「作品、空間、對象」這三種都具備的作品，

鑑賞者にも何かを与えたい。今までの自分は一方をこなすには一方をないがしろにするしかなかったが、この二つの自分をもつにする何かが存在しているはずだ。

二つの自分をつくれるもの、作者と鑑賞者をつくれるもの、その普遍な何かできつと私の求めている答えを持つているだろう。

今からその普遍な何かを探しに行つてく

## 自

從我進了武蔵野美術大學之後，參加過的企劃活動大部分都會身兼口譯的工作。因為本身會說三種語言的緣故，不得不接下這類的工作。決定參加這次「旅行武蔵美 in 台湾」的一開始的時候也預想着，一定會以某種形式去擔任口譯的角色。

出發前往台灣之前，一直在苦惱著，找尋著身為創作者的自己是為了什麼而畫、為了什麼而創作的答案。到目前為止，我所創作的作品無一不是為了自己而作，從來沒有想過站在鑑賞者的角度去思考。以前的我相信不這樣作的话，自己容易動搖；無法做出深入核心的作品。但是有作品的存在的话，也必定會有鑑賞者的存在。所以，雖說我確信只為了自己而創作，但在作品公開的時候，那信念也化為虛言了吧。

在台灣的時候，透過口譯的詮釋，引導鑑賞的流程或作品的說明。我注意到了有些用日語能說明的東西，但翻成中文後並不能夠說明的情況。也許是因為如此，我發現自己無法順暢的去說明作品。在課程中，我總是想忠實的傳達作者的意思。如果不能忠實的

讓我的學習更加一層，這也對於參加這次旅行武蔵美 in 台灣的學生們來說，往後也會成為相當強的武器吧！

在台灣這期間，學生全體、包含我都看得出来大家都相當緊張。雖說也有對於這次旅行武蔵美的過程的緊張感，但比起這個，還有也要面對同樣身為學生的人的這種緊張吧。不管大家是不是第一次見面，約一個禮拜在異國共同挑戰。且因為互相交談以後，就會以客觀的方式開始重新審視自己。這回的參加旅行武蔵美的所有關係者們，如果能讓他們獲得某種什麼的契機的話，我想我算是充分發揮作為隊長的角色了吧。能有這樣的想法，也是因為在現地幫忙翻譯的留學生們的支持與幫助。「慢慢的說」「盡量別使用專門用語」等等，關於語言方面我們能考慮到的都盡量考慮到了，但我們卻無法在翻譯的難度上感到共鳴。因為我們只有用日語打了個招呼而已。所以這次也學到了事前先學習些必要的當地語言的話，也許能幫忙減少翻譯留學生們的負擔！下次一定要好好地活用！

透過這些經驗，我也對於「對話」的重要性有了另一層面的認識。對話就是能客觀的審視自己。在台灣餐廳裡，常出現很大的圓桌。大家會圍成一個圈，互相看著對方的臉吃飯。從中我能感覺到，這是在表現溝通的重要性。像能舉無數例子似的，這次也學習了非常多東西。下次的相遇會是什麼呢？在下次相遇到來前，我還是先多交流吧！

（影像學科二年級 山端健志）

傳達的話，對學生們或是對創作者是很失禮的；總之，擔任口譯的角色如果不能代替作者傳達意思的話，還有誰能代為傳達呢？回到日本之後，我還是會對自己有沒有達成擔任口譯的角色感到懷疑。儘管如此，每當想起學生們在鑑賞作品的姿態，感覺為了自己而畫的作品漸漸影響了學生們對繪畫的想法。我一直深信，越偉大的作家是越有能做出震撼人心作品的力量。沒想到自己的作品也有一些影響人的力量，到現在也是難以置信。只是我瞭解到了，在作品裡面作者跟鑑賞者之間存在著某種超越語言跟國家的普遍性是必要的。

儘管如此，每當想起學生們在鑑賞作品的姿態，感覺為了自己而畫的作品漸漸影響了學生們對繪畫的想法。我一直深信，越偉大的作家是越有能做出震撼人心作品的力量。沒想到自己的作品也有一些影響人的力量，到現在也是難以置信。只是我瞭解到了，在作品裡面作者跟鑑賞者之間存在著某種超越語言跟國家的普遍性是必要的。

回到日本以後，我還在找尋自己參加這次企劃的意義。雖然現在我還是想為了自己繼續創作，也想帶給看作品的鑑賞者一些什麼。直至今日的我雖然在繼續創作；但對於後者並沒有去重視，一定有什麼方法是可以把這兩個面向的自己整合成一個面向的。

如何把自己兩個面向結合、如何把創作者跟鑑賞者連結起來、那個普遍性一定存在著我正在尋找的答案吧。

從現在開始我會去探求那個所謂的普遍性。

(LEONG ASHLEY 日本画學科一年級)

# 「鑑賞教育」が少し紐解けた感じがしました。

市瀬直人 福山國民小學國際交流日本語教師

「鑑賞教育」この言葉を初めて聞いたときに、どんなことをするのか全く想像が付きませんでした。私は門外漢でして、美術大学と聞けば創作活動をやる様子しか思いつきません。

武蔵野美術大学さんと台湾高雄市の福山小学校との間でどんなお手伝いをしたら良いのだろうか。

いたずらに日数が過ぎる中で杉浦教授から台湾まで国際電話があり、教育課程の中で生徒に絵を見てもらって意思を伝え合う活動とのことでした。曖昧糊涂とした四文字「鑑賞教育」が少し紐解けた感じがしました。

三月十二日当日の前々日と前日に教授と顔合わせ、打ち合わせを経て、当日を迎えました。台湾人は初対面でもまるで旧知の仲のように直ぐに共同で活動するものです。しかし、日本人の場合なるべく事前に顔合わせをして当日に初対面でないほうが物事がうまく運びます。そんな機会を与えていただきまして、教授の皆様に感謝しております。

当日、まずは鑑賞教育の授業を拝見しました。その後、質疑応答・討論を通して、鑑賞教育の趣旨が理解できました。一方的に教え込む授業ではなくて、子供たちに自ら発言してもらって創造性を刺激する、そのように理解しています。言葉による授業内容の事前説明は難しいものです。

日本人は小学生のときから「手を合わせてください。いただきます。」といった「足並みを揃える」訓練をします。個人が他者に合わせる訓練をしています。日本の社会では、独創性を発揮すると出る杭は打たれてしまいます。人より優秀でも劣等でも生きにくい社会です。

他方、大量生産の時代が終焉して、皆がいつせいに同じ方向を向いて同じことをするという所作が価値を産まなくなってきました。そんな時代にはいかに他者とは異なる発想が持てるかということが大切です。

この鑑賞教育はそんな時代に適合した、独創性や意思疎通の訓練に見えてきました。

質疑応答では高雄市の教員から積極的な質問が繰り返され、美術、創作、鑑賞、教育など普段とは異なる語彙により、通訳は非常に困難でした。

果たして私の通訳でどこまで鑑賞教育が台湾の教員に理解してもらえたか心配ですが、高雄の教員のみなさんの熱心な質問が続きました。

美術大学の人たちは教員の方も学生も常に新しいことを創り出して切り開いて行く態度が感じられました。

このことは、経済学部とか法学部、理系などの他の学部では先達の業績を学ぶ分野が多い中で、美術大学が大きく異なる点だということを知りました。

それは絵画や彫像、映像の創作だけでなく、授業をも創造する。

私の現在の日本語授業は一方的に教え込む進め方です。そうではなくて、今回の鑑賞教育から、何か取り入れることはあるかと思案中です。

独創性、意思疎通、にさらに語学を加えた授業ができないか。武蔵野美術大学さんの鑑賞教育に新しい視点をいただいた気がします。

## 第

一次聽到鑑賞教學這個單字時，我完全不知道要做什么。身為門外漢的我，聽到美術大學，只能想到創作活動而已。

到底我能幫武蔵野美術大學與福山國小他們什麼忙呢？

就在毫無頭緒中過了幾天，杉浦教授打國際電話來說明了，原來是將畫中的意義傳達給學生的活動啊！一直讓我覺得模糊不清的「鑑賞教學」突然有點清晰起來了。

在活動的前兩日，我與教授們見面了。與台灣人即使是第一次見面，依然能夠像是老朋友般一起合作的個性不同，日本人要先認識對方，當日活動才會比較順利。感謝教授們能夠給我這樣先認識的機會。

公開教學的那一天，我先觀摩教學的現場，然後透過老師們跟教授提問及討論，才了解到鑑賞教學的意義。原來鑑賞教學並非只是老師單方面授課而已，而是透過讓孩子自己發言，進而激發出他們的創造力。真可謂是百聞不如一見。

在日本的國民教育課程中，從小學開始就教導學生們用餐前要一同附唱「雙手合十，各位同學請慢用」，從小培養孩子配合旁人，互相協調。



在日本的社會中，樹大會招風，發揮其獨特性時反而會招致側目。比別人優秀或劣惡都有其難處之處。

另一方面來說，由於工業化社會逐漸邁入末期，所有人從事相同動作，已經無法再有相對應的價值了。在這樣的新時代之下，如何有與其他人不同的想法已經成為了最重要的事。從此來看，專為訓練獨創性及了解畫意的鑑賞教育可說是相當符合這個時代的。

在教學後的公開討論中，高雄的老師們主動提出疑問了，「美術、創作、鑑賞、教育」等等這些與日常生活用語完全不同的詞彙，口譯是相當困難的事，到底透過我的口譯能夠讓台灣的教師們理解多少呢？對此我相當擔心，還好高雄的老師們相當積極的提出許多問題。

我感受到美術大學的師生們不停的想開創出新事物的態度。反觀經濟系，法律系，及理工系的學生們課業多，我才知道了，美術系與其他科系的不同。那就是，並非只有繪畫、雕像、影片等等需要創作，連教學也是需要創造的。

我現在的日文教學只是單方面的授課，從這次的鑑賞教學中，我開始思考是否可以在教學中作些新的嘗試呢？有沒有可能增加一些具有獨創性、互動性，甚至是語言的課程呢？透過這次武藏野美術大學的鑑賞教學，讓我發現了新的視點。我負責一幅「一位鎧甲武士坐在石頭上」的油畫。隨著鑑賞進行，感受到了「這幅畫蘊含著即將上戰場的鎧甲武士的緊張」。其實我至今都還一直在思考著，



## 日本武藏野美術大學公開 教學觀摩研討會 觀後心得

高雄市大社國小輔導主任 梁銘順

日本武藏野美術大學近年來推動的「對話型鑑賞」藝術鑑賞教學模式，在李進士校長長的促成下得以在福山國小進行公開教學，也讓高雄市的藝文教師有幸能夠在現場近距離觀看「對話型鑑賞」的操作方式。

這一次鑑賞課程是以武藏野美術大學學生所創作的作品為文本，透過現場「引導者」與翻譯人員的搭配，以提問的方式誘使孩子進入對話的情境，並在對話的過程中完成對作品的深入探討。「對話型鑑賞」的根本價值，是在於透過鑑賞活動中的「看」與「說」來創造作品的意義，並擴延至人生意義的思考。這次武藏野的大學生將自身的創作投入在台、日不同文化脈絡中被觀看與對話，相信這種不同於純粹藝術展演的現場反饋，能夠成為滋長他們未來創作的養分，而對於在「對話型鑑賞」操作下進行學習的福山國小學生而言，第一次參與這樣的引導對話，我想應該也能充分感受自由表達的舒暢感。

而對於現場觀課的台灣教師而言呢？三澤一實教授在「武藏美行旅」成果紀實手冊序言中省思道：「如何能在短短的四〇分鐘上課時間內，引起孩子的學習興趣，並讓他們自發性的投入這場鑑賞活動呢？」我想，這不會只是三澤教授個人看到的問題，也應是所有在場的台灣藝文教師所共同面臨的問題吧。

在進行對話型鑑賞前引導者沒有必要知道作家的意圖以及作品的背景。因為我認為，拋磚引玉來問出觀賞者的意見，使大家共有，並將它發展的這個腳色作用當中，他自己本身的意見並不是那麼的重要。但是這回，因為在台灣這麼一個歷史文化相連的地方進行對話型鑑賞，我的想法也有所改變。

(市瀨直人 福山國民小學國際交流日本語教師)

日本の武藏野美術大学によってこの数年進められている「対話型芸術鑑賞」の授業方式について、李校長先生の福山小学校にて公開授業がおこなわれました。高雄市の芸術関連の教師はその場で至近距離から「対話型鑑賞」の手法を見ることができて幸せです。

今回の鑑賞授業は武藏野美術大学の学生が作った作品を鑑賞対象として、「ファシリテーター」と通訳が配置され、質疑応答形式で生徒を対話の中に誘うものです。対話の中で作品に対する掘り下げた話がなされました。「対話型鑑賞」は本来の価値は、鑑賞活動の中の「見る」と「話す」が作品の意味を生み出し、人生の意義を考えるにまで広がります。

今回武藏野美術大学の学生が自身の制作物を持ち寄って、台湾と日本で異なる文化のなかで鑑賞し対話を行いました。このような文化が異なる、純粋な芸術の展示をする教育現場からのフィードバックは、彼らが将来作り上げる授業法の血となり骨となると強く思います。「対話型鑑賞」にしたがって学習を進めた福山小学校の生徒からすれば、初めてこのような導かれた対話に参加して、自由に表現する心地よさを十分に感じたと思います。

ではこの授業を見学した台湾の教師からするとどうでしょうか。

三澤教授は「旅するムサビ」記録の序言の中でこう振り返っています。「四〇分間というとても短い時間の中で生徒の意欲を起こして、生徒たちが自発的に鑑賞活動に入っていくにはどうしたらよいか？」これは三澤教授だけの問題ではなくて、教壇に立つすべての芸術系台湾教師の共通する問題だと思います。

(高雄市大社國小輔導主任 梁銘順)



臺南市後甲國中學



圖書館  
LIBRARY



## 日本武藏野美術大學在後甲的藝術對話

臺南市後甲國中校長 陳瑞榮

日本武藏野美術大學師生今年再次造訪臺灣，由國家教育研究院陪同來到本校參訪，並與學校師生進行「對話型藝術鑑賞」實驗課程及教學活動交流。武藏野美術大學自105年起每年都來到臺灣，將其所推廣的「對話型藝術鑑賞」教學架構與臺灣學校分享，此次選擇在後甲國中進行實驗教學，並在教學結束後，與學校老師進行議課，分享教學理念與創作心得，對此我們深感榮幸，尤其是帶給學校教師在規劃教學策略上更多的想像，受益良多。

此外，我們也安排武藏野美術大學師生參觀學校的自造者行星基地及職業試探體驗中心，以介紹臺灣目前推動科技教育和生涯發展教育的作法經驗。武藏野美術大學師生對自造基地與職探中心的設置計畫深感新奇，其中有關數位設計與數位製造課程，更吸引師生們的注目。（圖說：後甲國中陳瑞榮校長向武藏野美術大學師生介紹自造基地。↓24頁）

日本武藏野美術大學師生帶著自己的作品來到後甲課堂，化身為一日美術老師，以自身創作為教材，讓孩子直接與藝術品的創作者面對面接觸，進行課堂間交流對話，循序漸進地引導孩子表達自己對於藝術品的感受。日本學生嘗試以此「對話型藝術鑑賞」的教學方式來培養孩子的藝術鑑賞能力，課堂中師生的對話，引發學生的興趣動機，也帶給教師更多的啟思，可說是教學相長最佳的典範。學生課

にいらっしやいました。そして「對話式芸術鑑賞」の実験的カリキュラムと授業の交流を行いました。

武藏野美術大學は民国105年（西曆2016年）から毎年來台し、「對話式芸術鑑賞」の授業を広げて台湾の学校と共有してきました。今回は後甲中学校を訪問いただき、授業後に教員と授業のあり方について意見交換をしました。本校にとっては光栄なできごとであり、さらに教員たちのカリキュラム作成上のヒントが多く意義があるものでした。

このほか、当校では武藏野美術大學の皆様、「ものづくりラボ」と「職業体験センター」をご覧いただきました。現在台湾で推進している科学技術教育と生涯学習のありかたを紹介させていただきました。武藏野美術大學の教授と学生の皆様は「ものづくりラボ」の設計コンセプトに興味をお持ちのようでした。その中でデジタルデザインとデジタルプロダクトのカリキュラムに注目が集まっています。

（後甲中学校陳瑞榮校長が「ものづくりラボ」について武藏野美術大學の皆様にご紹介しています。24頁）

武藏野美術大學の皆様が自分たちの作品を持参して後甲の授業にて一日美術教師となりました。自分自身の作品を教材として、学生に芸術作品の作者として直接話をしてもらい対話の授業が進みました。順を追ってゆつくりと生徒が芸術作品への感想を発言できるようファシリテートしました。日本の大学生は「對話型芸術鑑賞」の授業法で生徒の芸術鑑賞能力を養うよう試みました。授業では教師と生徒の会話が生徒の興味を喚起

後均表示，非常喜歡這場美麗的藝術感官饗宴。（圖說：日本武藏野美術大學學生以自身創作為教材，與後甲國中的學生進行交流對話。↓25頁）

國內近年推動美感教育，要使學生能運用「感性認識」來知覺世界，在精神生活和物質生活之間取得動態平衡，讓每個人都能持續在學校、社區、社會中學習美力，提升生活幸福感。後甲國中為藝術教育貢獻學校，為提供學生多元學習，涵養各項藝術藝術教育，每學年都辦理師資增能課程活化的研習活動，也辦理藝術教學成果展，展現教師教學和學生學習的成效。

學校秉持「優質的環境孕育優秀的人才，優美的情境提升品格情操」的理念推展校務工作，著重環境與心靈美感的內涵，以發展品格優先。品格教育為所有課程首重的議題，更是學校教育的基本要求，學校不只從日常生活教育中倡導品格，更從各種科目課程的教學中融入品格教育，藝術美感教育更是為重。

日本の武藏野美術大學の皆様が本年も台湾を訪問し、国家教育研究院とともに当校

し教員に更なるやる気を与えます。これは授業の相乗効果の模範です。生徒はこの美しい芸術の鑑賞活動が大好きだと授業の後で発言しています。（武藏野美術大學の学生が自作品を教材として、後甲中学校の生徒と意見交換しました。↓25頁）

台湾国内では近年、美感教育が進められています。「感性を知ること」によって知覚世界に到達し、生徒が精神生活と物質生活のバランスをとるようになることを目標にしています。一人ひとりが学校にて、コミュニケーションにて、社会において美の力を知って、生活の中の幸福感を向上させることを目標にしています。後甲中学校は芸術教育に貢献する学校として、生徒に多元学習を提供しています。各種芸能を養う、芸術を高める、品格教育を進めることを以って積極的に芸術教育を推し進めています。すべての学年において教員の資質を高めるための研修活動を行っています。また芸能授業の成果発表を行い、教員の授業と生徒の学習の成果が現れています。

学校は「優良な環境が優秀な人材を育む、上品な空間は品格情操を向上させる」という理念の下に校務を進めています。環境と心の美しさを合わせ持った品格の発展を優先しています。品格教育はすべてのカリキュラムの中で最も重大なテーマであり、学校教育の基本要求です。学校は日常生活の品格を教えるだけでなく、さまざまな科目の授業の中に品格教育を溶け込ませます。芸術や美の教育はさらに重要なのです。

（臺南市後甲國中學校校長 陳瑞榮）



## 武藏野美術大學與後甲國中美的相

臺南市立後甲國中教務主任 施怡菁

因緣際會，2018年三月後甲國中有幸與日本武藏野美術大學師生來一場美麗的相遇。感謝國家教育研究院課程及教學研究中心暨亞太地區美感教育研究室牽線，讓敝校師生在三月初春之際，有機會進行臺日美術教育交流。

日本武藏野美術大學以「對話型藝術鑑賞」教學方式，引導學生表達自己對於藝術作品的感受，增加學生五官的敏銳度、感受度，建立未來的關鍵能力。這些作品的創作者是武藏野美術大學師生，他們以分組的教學方式，讓敝校學生更能近距離與作品、創作者面對面接觸、探索與彼此分享。

圖說：武藏野美術大學的學生，以分組教學方式，讓後甲同學近距離與作品、創作者面對面接觸、探索與彼此分享。

此次參訪行程由三澤一實教授領軍，帶領近三十名具有美術、設計、藝術教育等專長的師生蒞臨敝校，展開一場生動有趣、超越語言力量的藝術活動。他們帶來的創作作品類型多元，有插畫、水墨、油畫、複合媒材等，讓學生以不同層次與面向解讀與解構作品。例如先從材料、色彩、形狀、技法、構圖、進行眼睛所看到的表象解讀，再從主題、意義表現等方面，進行詮釋；另外，也藉由觀賞者、創作者的生活經驗以及布展的方式，引導學生理解作品的意涵。觀課期間，由日本師生、翻譯人員從旁協助，帶領一年十九班學生自主學習，讓學生更快融入藝術的氛圍之中。

的美術教育交流的機會に恵まれました。

武藏野美術大學は「對話式芸術鑑賞」の授業方法を使って、生徒に芸術作品に対する感じ方を表現させたり、生徒の五感の鋭さ、感受性、未来の力を解くチカラなどを生徒から引き出しました。これらの作品の制作者は武藏野美術大學の教授であり、学生です。彼らは小班に分かれて、わたしも中学校の生徒と作品、作者からより近い距離で直接意見交換をさせていただきました。

図說：武藏野美術大學の学生が小班に別れる小班に分かれて、わたしも中学校の生徒と作品、作者からより近い距離で直接意見交換をさせていただきました。

今回の訪問スケジュールは三澤教授を団長として美術、設計、芸術教育を専門とする教授と学生、約三十名が当校を訪れて、生き生きとした興味深い、言語の壁を越えた芸術活動を展開しました。彼らが持参した作品はイラスト、水墨画、油絵、マルチメディアなど何種類もあり、それぞれ異なる深さや角度から、生徒に作品を鑑賞してもらいました。たとえば、まず、材料、色、形、技法、構図、目に映った外観を聞きました。次に、テーマ、意義、表現などを考えます。その他、鑑賞者と作者の生活経験および展示の仕方、作品の意図するところを生徒が理解できるよう導きます。授業を見学している間、日本からの教授、学生、そばで協力する通訳の人には、一年一九組の生徒が自主的に学べるように指導、生徒がなるべく早く芸術的雰囲気に入れるようにしていただきました。

当校はクオリティーの高い芸術文化活動を推進す



敝校希望能藉由推動優質藝文參訪活動，增加學生的美感體驗機會，同時培養學生拓展藝術鑑賞的國際視野，完成國民教育階段感受美感生活之實踐，落實美感教育向下扎根之目的。

## 縁

あつて、2018年三月に武藏野美術大學と後甲中学校が良い出会いをしました。国家教育研究院課程及教學研究中心ターアジア地区美感教育研究室のお引き合わせありがとうございます。当校の教員生徒は三月の春にあつて、台湾と日本

るため、生徒に美意識を体験する機会を増やして、同時に生徒の芸術鑑賞の国際的視野を広げることが希望しています。

義務教育の段階で美意識のある生活の実践は、実施した美意識教育がしっかりと根を下ろすことが目的です。

(臺南市立後甲國中教務主任 施怡菁)



後甲中學校では、大学二年の時に制作したシルクスクリーンでのイラスト作品を見た。この作品は二十歳になる前後、当時の自分自身のポジティブな気持ちもネガティブな感情も複雑に込み入った細かいイラストの集合体とも言える作品である。

私自身は作品に制作意図があったものの、生徒からはふわっとした感想が来る程度かなと予想していた。例えば「なんだか楽しそう」「カラフルでかわいい」といった具合に、「成人」という日本特有の文化や、日本人だからこそ感じていた複雑な心情まで共有するのは難しいだろうと予測していた。だとしても、作品を見て言葉として出てきた彼女たちの感覚を共有できるのなら面白いと思った。

ところが作品を見せたら、少女たちは口々にたくさん感想を述べてくれた。初めは何色があるか、どんな形があるかを挙げていた彼女たちが、ファシリテーターの「どんな気持ちのイメージがある？」という声かけで、ビールのイラストから、お酒を飲みたい気持ちを読み取ったり、船のイラストから、旅行に行きたい気持ちを読み取ったりと、どこにもその文字は描いていないのに「want」の気持ちを読み取ってくれ大変な驚きだった。

さらにファシリテーターからの「絵全体からはどんなイメージがある？」という声からは

けには「Happy」、緊張、興奮などの言葉が行き交った。さらに「どうして？」と聞いてみると、曲線を指差して「これがそう感じさせる」と言ったり、彼女達が知らない成人祝いという文化を象徴する「20」という文字や「HATACHI」という文字からその意味を様々に想像したりして、「20個の夢」「20個の行きたい場所」など次々に素敵な発想をしてくれた。

表現をする者としてこれ以上ない幸せだった。自分が二〇歳の時に感じていたこと、そして遡って一四歳の時に想像していた二十歳や大人の感情を、台湾の一四歳の少女たちと共有できたのである。彼女らが元気に教えてくれた「アイドルのライブに行きたい」「彼氏が欲しい」「大学に行きたい」という夢を、ほんの少しずつ叶えてきた私が、あの時の無垢に切実に願っている気持ちに再会することができたのである。

この喜びは、言語や文化を超えて作品を通して交流できたこともあるが、目の前にいる彼女たちと私との間、つまり個人と個人が深い感情に共鳴できたここが大きな喜びだったと気付かされた。

### 在

後甲國中(臺南市立後甲國民中學)、我展示了在大學二年級時用絹版印刷所創作的插畫。可以說這是一幅灌注了我在剛成了二十歲左右時的正能量與負能量等等複雜的感情後，所創作成的纖細的插畫集合體。

對於這個作品本身所帶來的效果，我的預



いかと痛感した。

自由鑑賞という時間では、私の作品に対して子どもたちや先生方と筆談をした。私の作品は日本でも対話型鑑賞が使われた為、日本と台湾の感じ方や捉え方、価値観が違うのかどうかを確かめたくて考えを求めた。私の中で「外国人と日本人の考え方は全く違うのではないか」という思い込みに触まれていたのだろう。形や色から「月」と「太陽」という考えが、そして、四枚の作品からの連想で「四季」という言葉が出てくると思っていなかった。

今回の旅ムサ台湾で私は多くの発見や無意識下の考えを打破することができた。



想是學生老師們看到作品後，說出來得感想大概都是僅止於表面，像這種「從作品中能感覺到快樂」「五顏六色的好可愛」等等之類的。我有預想到因為在日本對於「成人」的特殊定義或文化，要讓當地的學生體會到身為日本人才有過的複雜感覺是蠻困難的。但就算如此，如果能聽到看著作品的她們說出感覺的話，那也應該會很有趣。

然而，在展示作品給她們看之後，女孩們七嘴八舌的說出了她們各自的想法。不停地提出「裡面有幾種顏色呢?」「有什麼什麼形狀在裡面呢?」之類的問題。當引導者問她們「對於這個圖案，妳們有什麼感覺或印象嗎?」的問題之後，當有酒的插畫，她們就會把它解讀成「變的想喝酒!」。當有船的插畫，就會把它解讀成「想去旅行!」。在完全沒有任何文字的插畫上，把它們解讀變成「想(Want)」的感覺，這一點讓我非常震驚。

在接下來引導者問出「從作品全體來說，妳們有什麼印象?」的問題後，「Happy!」「緊張」「興奮」之類的單字不停來回交錯。再緊接著試問著「為什麼?」之後，女孩們指像作品中的曲線說「這讓我感覺到的」。奇妙的是，她們不知道作品中的曲線所描繪的是成人式中的「20」與「HATACHI(20的日文讀法)」。但卻不斷從中聯想出「20種夢」「20個想去的」這類非常棒的聯想。

以表現為主進行創作的我來說，這一切讓我深感幸福。這些自己在二十

しかし、子どもの考えていることを上手く引き出すのが課題となった。これからこの課題をどうこなすのか、固まった考えを見直す必要がある。

### 這

是我第一次接觸日語完全溝通不了的環境，並從中透過觸覺感受其教育的紋理。在這次活動裡各擔任了中小學的引導者，這次兩回的對話型鑑賞活動中，學生們直

歲時的感情，與之後再回逆到十四歲時的自己所幻想的二十歲與大人的感情，居然能與十四歲的台灣女孩們所產生共鳴。她們也非常開朗的跟我分享著她們的夢「想去偶像的演唱會」「想交個男朋友」「想去大學」等等。對於慢慢達成這些夢想的我來說，我再次相遇了那時純真想要達成這些夢想的自我。因為透過藝術作品，有了跨過語言與文化從而進行交流的喜悅。但最值得讓我珍惜的是，眼前的女孩們與我之間所產生的那不可動搖的共鳴。

(視覺表現設計學科三年級 山村風子)



接快速的將各種想法傳達予我。能充分感受到反應及思考的靈敏，然而第一回活動中，問與答間過於倉促，感到慌忙不已。然後透過譯者來進行的話，無法縮短引導者與學生們的距離。於是在第二回的對話型鑑賞中，我有意識的加強身體語言的表達。然而第二回的活動，學生的年齡層位於國中二年級，對於問題回答仍很快速，導致畫家提早登場。身為對話型鑑賞的引導者似乎也不能與學生們縮短距離。進行上即使關於形跟色能快速回答，但是切入主題的更深入內容卻無法順利進行。在有些學生想要早點回答出作家想像的答案時，我作為引導者，卻無法以其它角度切入，進行更深的對話。我深切感受到這是我的一大課題。

於自由鑑賞時間中，我與老師學生們進行筆談。我透過同樣作品，試圖於對話型觀賞，體驗日本人與台灣人的文化思想差異。起初我以為外國人與日本人在看畫的觀點上完全不一樣，但有趣的共同點在於，有許多人，從形與色推敲出月亮太陽，亦或是四連作即聯想成春夏秋冬。

這次的活動讓我不知不覺中打破許多固有的觀念，並發現新的課題。我也期待日後直視新課題的本質，重新省視固有觀念，並有更斬新的發現。

(藤繩有紀 油畫學科一年級)

私は旅ムサ台湾に行くことで何が得られるか、ということはずっと考えていた。私は教職をとっていないデザイン学科の学生であるし、美術教育の専門的な勉強もしていない。けれど、そんな私だからこそ見えるものや、得られるものがあるのではないかと考えて今回の旅ムサ台湾の参加を決意した。小学校では作者として、中学校ではフアシリテーターとしての参加だった。

私は今回映像作品を持って行った。作品を見た人が、想像を膨らませたり考えたりしてしまうような「表現」ができているのだろうか？というのが作者として考えていたことである。結果的に小学校では、自分の想像していたよりずっとまっすぐな意見を聞くことができた。どうしてこの作品を作ったんだと思う？という問いに、「この形、色、音が好きだから！」という意見が出た。この形や音にしたのはもちろん理由があつてのことだけれど、理由だけはこの形は作れない。自分の好きなものが根源にある作品は、一番自分らしいということ思い出させてくれた。

中学校では、「ハタチ」という作品のフアシリテーターを務めた。たくさんの方が散りばめられた、山の上で片足立ちをしている女の子が描かれた作品を見て、「い



ろんなことがやりたくて、ワクワクして

る。けど、不安なの」と、一四歳の女の子たちは作品に描かれた「オトナになる」という不安とワクワクの気持ちを読み取っていた。作者が「オトナになったら何がしたい？」と聞くと一四歳の女の子たちは六年後を思い浮かべ「大学に行きたい」「好きなアイドルのコンサートに行きたい」「恋人が欲しい」などたくさん希望を語って

## 森ゆい

油画学科版画専攻二年



旅ムサ台湾への参加表明をしたのは昨年十一月下旬。台湾を訪問する前に、まず日本の小中学校で行う旅ムサの活動に参加し、国内で経験を積んでおくことが課題として出された。

これまで旅ムサに参加したことになかった私は、台湾訪問までの約三ヶ月を鑑賞活動に捧げることを決意した。初めてこの活動を経験した時、生徒たちが学生の作品に色々な意見を出してくれることが嬉しく、「楽しかった」という感想でいっぱいだった。それが回数を重ねていくにつれ、「深まるって何だろう？」という疑問を強く抱くようになった。鑑賞が深まるとはどういう状況を目指すのか、未だに感触が掴めな

くれた。私はこみ上げるものがあつた。台湾のリアルな一四歳の等身大の女の子がそこにいて、私が一四歳だった頃と同じ不安とワクワクを持っていたから。生まれた国も話す言葉も違うけれど、同じだ。等身大で自分のことを大きく見せたりしない、自分のやりたいことをまっすぐ言えるような彼女たちみたいに、私もなりたいたと思った。

台湾で対話型鑑賞をすること。それは日本の美術教育を背負った大きなプロジェクトだった。しかし、それだけでなく台湾の子どもたちと武蔵美の学生との心の対話があつた。交流があつた。それがすべて自分に返ってくる感覚があつた。とても大きなものを得た旅ムサ台湾だった。

## 之

前我一直思考者、自己可以从参加旅行武蔵美 in 台湾的活動中得到什麼。我是一個沒有修教職的設計系學生，也沒有修習過專業的美術教育的相關課程。但是正因為這樣的自己，一定可以看到、或發現一些東西不是嗎？考慮到這些，我決定

い。いくら考えても答えは出ず、ずっとなさない気持ちに侵食されていた。深まるとは、何なのだろうか。

中学校では週に一時間しか美術の授業がない。多くの生徒たちは三年間でたったの五日間しか美術に触れる時間がないということだ。その貴重な一時間を、私たち学生が担当する。その責任の重さに気付いた時、私は自分のしていることが怖くなった。振り返ると、国内でも台湾でも、頭の中は常に霧がかかっていたように思う。

対話型鑑賞では、誰と誰が対話するのだろうか。私は最初、フアシリテーター対生徒、生徒対生徒の人間同士の対話を指しているのかと思つた。勿論その意味合いも含まれているだろうけれど、あくまで美術の授業だということを考えると、一番目を向けるべきものは、作品と生徒の関係性なのではないかと気付いた。まだ価値が定まっていない学生の作品を他人と共に鑑賞し、作品と対話を重ねていくことで、鑑賞者が自分なりの価値を見出す行為は、美術の授業だからこそできることだと思う。鑑賞者が自らの鑑賞活動をより楽に、そして豊かなものにするように、手助けをするのと。それがフアシリテーターの役目なのではないかと、国内旅ムサと台湾を終えた今になって思う。旅ムサ台湾に参加する前に、国内で経験を積んでおくことが課題として出された意味が、ようやく分かった。

参加了這次的旅行武蔵美 in 台湾。在台灣的小學我是以創作者的身份，在台灣的國中則是以引導人的角色來參加。

我這次帶了影像的作品去，身為作者的我曾經想過，自己的作品能讓觀者的想像力馳聘，能讓觀者思考嗎？在台灣小學施行後的結果，超越自我本身的想像，接收了很多一針見血的意見。有一個導師是「你覺得為什麼作者做了這個作品呢？」，然後有人說出了「因為喜歡這個形狀、顏色、聲音啊！」的意見。為什麼是以這樣的形式或聲音一定是有它的理由，但光有理由還沒辦法完成這個作品。這讓我回想起，最能表現自己的作品是源自於自己喜歡的事物。

在台灣的中，我擔任了「ハタチ (Hatachi, 日文中的二十歲)」這個作品的引導人。很多的東西被描繪在這幅作品裡頭，一四歲的女生們看到山上有一個單腳站立的女孩被畫出來作品，他們感覺到這幅作品傳達出「想要做很多事，雖然覺得很興奮，但是其實是很不安的」這樣的情緒。創作者問了「變成大人後想做什麼呢？」之後，一四歲的女生們踴躍地分享了關於六年後的願景，像是「想唸大學」「想去喜歡的偶像的演唱會」「想談戀愛」等等。我有種莫名的感覺湧上來，因為台灣的一四歲女孩毫無保留的在我面前，而且所懷抱的不安情緒和興奮之情與曾經一四歲的自己是一樣的。雖然出生在不同的國家，使用的語言也不同，但卻是一樣的。我也想像變成她們一樣，不過度彰顯自己，自己想做的事能率直地說出來。（山田結美 基礎設計學科二年級）

## 記

得決定參加這個活動是在去年十一月。來台灣參加活動以前，為了累積經驗，認真投入了約三個月的日本中小學對話型鑑賞活動。

當初參加這類型的活動時，得到了各種學生的反饋，「很開心」亦是大多數學生的感受。隨著參與活動次數的增加，漸漸對對話所產生的深度，感到徬徨。也無法具體了解加深鑑賞教育的深度是指什麼樣的情況。即便是不斷思考，還是被這個問題困擾萬分。

對中生來說，每週僅有一堂美術課。多數的學生加起來在三年中，只有五天接觸藝術。我突然間意識到，一次一個小時的對話型觀賞的責任是如此重大，甚感惶恐。縱使是驀然回首，在國內或台灣的活動都令我至今仍感到迷惘。

對話型鑑賞，究竟是誰與誰在對話呢？起初我以為是引導者與學生間，或是學生跟學生間的對話。這些解釋當然不算是錯的，但若我們以學校美術課的觀點去思考，對話型鑑賞不正應該是，學生與藝術作品間的對話嗎？透過這些尚未訂定價值的作品，讓彼此共同分享討論的同時，觀者意識到自己的評論價值，這是唯有美術課程才能達成的事。觀者為了讓對話型鑑賞更為有趣豐富，亦積極投入對話中。經由日本與台灣的活動，我感受到這正是身為引導者該學習與努力的事。（森ゆい 油画學科版画專攻二年）

## 武藏野美術大學公開教學——「對話式美術鑑賞」令人印象深刻

高雄市岡山國小 林晉如老師

2018年三月，在高雄市福山國小舉辦日本武藏野美術大學公開授課，觀課後，讓我體驗到日本與臺灣在藝術教育上明顯不同的授課方式。

武藏野美術大學的「對話式美術鑑賞」發人深省。教師以「開放式提問的方式」引導孩子欣賞油畫作品，一開始，小朋友顯得拘謹不安，回答簡單扼要。幾輪下來，孩子發現，不管說出什麼答案，老師都給予肯定及鼓勵，並尊重孩子的答案。接下來，小朋友就放心將心中天馬行空的想法說出來，各種特異想像都有，五花八門，從各種視角觀看出來的想像皆不同。原本沒發言，或怯懦不敢發言的小朋友，也試著說出了自己獨特的想像。

待老師揭曉，說明她為什麼這樣畫時（老師就是創作者），雖然沒有小朋友對創作者的想法，「原來如此」真相大白，小朋友有恍然大悟的感覺。看到小朋友互相傳閱老師提供的草稿，一定覺得創作者竟然可以把多張照片的影像融合畫在一張圖畫裡，大開眼界。藉由孩子們的觀察及老師的引導，讓孩子發現，原來每個人的

思考是如此獨一無二，也因為孩子發表了自己的想法，完全融入課堂氛圍，更期待聽到同學的想法，專注於思考中。

在台灣，藉由觀察一幅畫，整堂課都在進行「對話式」的鑑賞方式並不多見。大部分是請幾位孩子分享完心得就謎底揭曉。武藏野美術大學的「對話式美術鑑賞」令人印象深刻，國語、數學等學科可能有制式的標準答案，但藝術的解讀無分國界，每個人都可以經由自己的觀察而有讀特的解讀，當孩子認知到「原來別人是這樣想的啊！」同時也是一個很好的學習經驗。這樣「沒有標準答案」的一課堂，或許是我們可以參考並運用的。

## 對

話式美術鑑賞のインパクトは強かった。2018年三月、高雄福山小学校にて日本の武藏野美術大學が公開授業を行いました。授業で日本と台湾の芸術教育の授業のあり方に明確な違いを体験しました。

武藏野美術大學の「對話式美術鑑賞」は人をして深く考えさせるものがあります。教師はファシリテーションによって子供を作品の鑑賞に導きます。当初子どもたちは不安な様子で慎重に簡単な要点を答えます。それを何度か繰り返すと、子どもたちがどんな答えを出しても教員はそれを肯定したり、励ましたり、子供



の答えを尊重してくれることに気づきます。その後、子供たちは安心して、制限を受けることなく自由に発言します。ユニークな想像や、作品をみる視点はみな異なります。それまで発言しなかった子ども、あるいは発言することにおびえていた子どもも自分自身が想像したこと話すようになりました。そして作者が登場し、どうしてこのような絵を描いたのかを説明したときに、子どもがまだ作者の制作意図を理解して

## 感謝武藏野美術大學舉辦這場公開教學活動，讓我有機會可以了解什麼是「對話式的美術鑑賞」

高雄市桂林國小 鄭舒云老師

在這場活動中，我看到上課的老師一步步地詢問學生從作品中看到什麼？讓學生去發掘作品的細節，藉由觸摸作品來感受作品的質感，最後由作者直接分享自己的創作想法，並且讓創作者和學生進行互動。我看到學生藉由對話中與作品和作者建立了關係，不斷發現作品中的細節和這件作品給自己的感覺，並且在對話的過程中了解作者的創作概念，進而產生共鳴。

看完這次的教學，我也試著調整自己在學校中的教學時間分配。在學生們創作完成後，我除了引導學生欣賞作品外，也



讓學生和學生對話，讓創作者和觀賞者對話。在對話的過程中，我看到了身為創作者的小朋友嘴角掛著開心、自豪的笑容，而作為欣賞者的學生們也充滿了專注與好奇。有些小朋友因為很希望自己的作品能被同學選中，能有機會出來和大家分享創作，臉上又是期待又是緊張。

最後還是要再次感謝武藏野美術大學的這場公開教學活動，讓我有機會在自己的教學上做新的嘗試，讓孩子們在對話中感受作品中的美感，再藉由正向的互動表達出來。在「對話式的美術鑑賞」中，人與作品串聯了起來，我也從孩子們的臉上看到了美麗的笑容與風景。

## 武

藏野美術大學に公開授業をしていただき、感謝しています。對話式美術鑑賞とは何かを理解することができました。

子どもとの対話によって作品のディテールまで掘り下げ、また、作品に触れることにより作品の質感を感じ取る。作者と直接コミュニケーションをとることによって作者の創作意図を共有する。子どもたちは対話によって作品・作者との関係を繋げ、そして、子どもたちが作品からどんな感じを受けたかを新たに発見する。

また、会話の中で作者の創作意図を理解し、共感する。

この授業を見終わって、わたしの授業でも時間をとって試してみました。子どもたちが作品を完成させた後、別の子どもたちに鑑賞させるだけでなく、子どもたちに作者と鑑賞者の会話をしても良かったです。作者である子どもはよく笑い、笑みを浮かべながらよく話しました。鑑賞する子どもが興味深く見ている姿を確認できました。またある子どもは自分の作品を鑑賞作品に選んでもらいたく、期待し緊張している様子でした。

武藏野美術大學の今回の授業にはあらためて感謝いたします。私たちの授業において新しい試みに挑戦するきっかけとなりました。子供たちには対話の中で作品の美を感じてもらい、正しい方向によって、コミュニケーションをとることができました。「對話式美術鑑賞」の中で人と作品は結びつくことができ、私も子供たちから美しい笑顔と様子を見ることができました。

（高雄市桂林小学校 鄭舒云教諭）



いなくとも、「なるほど」とはつきりと悟ったような感覚になります。学生が用意したスケッチブックを生徒たちが先を争って読みまわしている様子が見られました。作者は絵一枚の中に写真をたくさん取り込みイメージを広げています。子どもたちの観察と学生の導きによって、本来一人ひとりの考えは唯一無二であることを子どもに発見させます。子どもは自分の考えを発表することによって主体的に授業に参加するようになり、さらに他者の考えを聞くことを楽しみにし、考えることに専念するようになります。

台湾では、絵画作品を取り上げて、授業全体を「對話式」で鑑賞を進めていく手法は多く見られません。ほとんどは何かの子どもと感想を共有したのち、わからない部分を発表します。武藏野美術大學の「對話式美術鑑賞」は人々に深い印象を与えました。国語、算数などの科目は決まった正解があります。しかし芸術の解釈は国を超えて一人ひとりが自分の観察、得意な解釈をすることができません。生徒が「他の人はそんな考えなんだ」と知ることができとても良い経験です。このような「決まった正解がない」授業は、もしかすると私たちが参考にしたい実践できる授業かもしれません。

（高雄市岡山小学校 林晉如教諭）

## 日本武藏野美術大學公開授課觀摩研討會活動（福山國小場）觀課心得

高雄市中庄國小

王育賢老師

2018年3月的「對話式鑑賞」教學活動，武藏野的學生以生活性的對話與福山的孩子互動，從中發現師生在提問與回饋過程中產生的共鳴已超越了語言的隔閡，更可喜的是孩子自主性地投入活動並深入創作者繪畫精神的探索。

過去台灣的視覺藝術教學活動中，創作往往變成教學活動的主軸，卻也因此弱化了鑑賞的教學。但近期隨著社群平台的普及，教師願意開放教室分享教學，在這一波翻轉教育熱潮中，國內在鑑賞教學上也可看到美術教師（新北市中和國中孫菊君老師）以ORID焦點討論法設計美術鑑賞課程。兩者的教學設計在字面上雖有所差異，但在教學目標上不外乎皆是希望學生能透過互相對話、提問的過程，對作品的欣賞有更深入的省思與啟迪，而不只是表面形式（如：很美、漂亮之類）的回應。可見帶領學生發表所見所聞，闡述個人理念，已是我們開始重視的部分。

而筆者在觀課後帶領小三學生介紹小組創作，也許第一次的實施過程仍有待改進，但學生已經開始會學著思考，課堂中的對話也變得不一樣。我想只要願意踏出第一步，孩子就多了一次成長的機會，不是嗎？



## 藏滿明翔

油畫學科油畫專攻二年

異國的美術を専門的に学んでいない子供達と交流する絶好の機会が旅するムサビ in 台湾でした。

台湾での活動の中で、自分の作品を紹介して交流する機会は、高雄の小学校と台中の中学校での鑑賞授業の二度ありました。高雄での鑑賞授業ではファシリテーターを担当しましたが、実際に絵を並べ子どもを前に鑑賞を始めた時の行動や発言は懐疑的に受け止めました。理由としては、今回の鑑賞授業に限って言えば、多くの大人が児童の発言に耳を傾けており、表情や行動を映像で記録されている環境下での児童の発表は、ネガティブな発言をしなかったり、友達と話しながらの些細な発言などはしなかったりする可能性が高いと考えたからです。私自身も、同じ状況なら他人の目を気にしながらの発言をしたいと思います。重要なのは、鑑賞授業をきっかけとして、自由鑑賞時間にどれだけ児童の所作を観察し、交流しながら反応を知ることができるかでした。

自由鑑賞時間の子どもは友達と考えを共有しながら、自由な発言や行動をしています。特に、気になった発言や行動では、多くの児童が指をさして、山が描かれている絵なら「山」と発言し、「この山はどこ山の山の？」「なんでこの山を描いたの？」

2018年3月の「對話式鑑賞」授業において、武藏野美術大学の学生が台湾高雄の福山小学校の子供たちとコミュニケーションをとりました。その中で、教員や学生が提起した問いに子供たちが答えるプロセスにおいて、言語の壁を越えて共鳴するものがあった、ということを見ました。

さらに嬉しいことに、子供たちは主体的にこの活動に参加して、作者の制作意図を掘り下げて理解しました。これまでの台湾の視覚芸術の授業では、作品を作ることに授業の主軸となっていて、鑑賞教育がおろそかになる要因となっていました。しかし最近、SNSの普及とともに教員たちは教室の授業を公開したいと思うようになりました。この潮流のなかで、台湾の鑑賞教育においても美術教師（新北市中和中学校孫菊君先生）がORID（焦點討論法）という手法により美術鑑賞のカリキュラムを作成しました。

両者のカリキュラムは言葉の上では異なっています。しかし、どちらの授業も目標は対話を通して生徒が問題提起して、作品に対して深く味わったり、教え導くにほかならなりません。それは、とても綺麗とか、美しいなどの表面的なものだけではありません。リーダーである学生の発表を見聞きしたところでは、私の個人的な考えですが、対話式鑑賞教育は私たちがすでに始めている部分です。

私は公開授業を見た後、三年生の生徒に小さい班に分かれることを提案しました。初めて実施するときにはたぶん改良が必要です。けれど生徒は考えることを学び始めました。授業の中で対話はまた違ったものです。はじめの一步を踏み出すことだけを私は願っていました。そうすれば、子供たちは成長する機会がまたひとつ増える、そうではありませんか。

（高雄市中庄小学校 王育賢教諭）



今回の旅するムサビ in 台湾での収穫は、美術作品を鑑賞する環境作りは鑑賞者中心であることを前提に、発言だけではない子どもへの反応や動きをしつかりと観察した上で慎重に行わなければならないということを知れたことです。

## 旅

行武藏美 in 台湾，可以說是與還沒受到專業性的學習國外美術的學生們進行交流的絕好機會。在台灣活動的期間藉由自己的作品來創造交流的機會，就是在高雄的小學與台中的國中這兩次的鑑賞課程。在高雄小學中的鑑賞課程中，我擔任了引導者的身分，本來引導者的目的是為了促進孩子們對於作品的想法而進行相互交流。這回，當在面對孩子們站在作品前進行鑑賞時所作出的一切發言與行動，我心目中都抱持著懷疑。理由是，從這次高雄的小學鑑賞課程來說，多數的大人會仔細傾聽小孩們的發言，而且在表情與行動都被錄影機錄下來的情況下，孩子們通常也不會有任何負面性的發表。也可能不會有與朋友聊天時所產生

出來的這種更細緻的言論。我本身也會因為別人的眼光而注意自己的言論。但最重要的一點是，以鑑賞課程為契機，在自由鑑賞時間中，我們能觀察孩子們舉動到什麼程度？並且在這之後的交流中是否能理解到他們的反應呢？我想這才是最重要的。

在自由鑑賞時間中，孩子們之間會互相分享自己的想法，並且自由的發言與活動。在這之中我特別在意的行動與發言是，大多數的小孩都會用手指指著作品，譬如說一幅畫了一座山的作品，小孩就會不停的問「這是山！」「這是哪裡的山呀！」「為什麼這裡要畫一座山？」「等等」。比起作品中的氣氛、構圖、作品名這些來說，「作品裡畫了什麼？」「那是什麼？」「為什麼要畫那個？」之類的物品性要素更能吸引他們的注意力。因此可以得知，小孩們對於「具象化作品」的反應較高。相對的，對於「抽象化作品」的反應是較低的。但是，反應也有不看發言與行動的一面。也許，反應較低的抽象化作品，實際上在孩子的感情層面上帶給他們無比的震撼。但是只因還沒辦法把感情透過行動與發言所表現出來而已。雖說至今還無法從旁去解讀，當觀者在觀賞美術作品的時候，內心被觸發但無法透過言語或行動表現出來的感覺。我覺得這種觀點是存在且不可輕忽的。透過這次旅行武藏美 in 台湾，我了解到，這個活動是以創作者為中心營造了觀賞作品的空間作為前提，不只是孩子們的發言，他們的反應和動作都需要確實的去觀察然後慎重的進行對話式鑑賞。

（藏滿明翔 油畫學科二年級）



## 松橋繪菜

空間演出デザイン学科2年

今回私は、作品の作者として対話型鑑賞に臨んだ。子供達の第一声は「よくわかんない」だった。私が今回持参した作品は、平面の絵と立体を組み合わせたようなものだった。さらにその作品の周りにはクレヨンやら色鉛筆やらが転がっている。なんだか色々置いてあってどこから突っ込めばいいかわからない。子供達の表情はそんな風に見えた。

私が今まで対話型鑑賞に参加しなかったのは、「対話型鑑賞は絵画作品じゃないといけない」と思い込んでいたからだった。学科のせいにしてはいけないが、私はいつでも持っていけるような絵画の作品を作ったことがない。しかし絵画でなく「空間を作る」という表現方法を知って欲しかった。

そこで私は、「絵を描いていたらキャラクターが飛び出してきたらいいの」というテーマでできるだけ絵画に近い、今までここに絵を描いていた人がいたような空間をその場で作ってみた。学校では普段子供達が使っている机を借りることができた。机をぐるりと子供達が囲んで、鑑賞が始まった。最初こそ「よくわかんない」と沈黙があったが、最初だけだった。「泳いでいるの?」「浮いているの?」子供達の推理が深まるたびに発言は止まらなくなつた。様々な角度から机の上のクレヨンを



触つてみたり、作品をつつてみたり、たくさんの子供たちの腕が伸びていたのを鮮明に覚えている。一人の子が言った。「キャラクターが寝ているからだよ」子供達が作品の周りの空間を読み取ってくれた、と確信した。

作者が話す時間には、私は机を囲んだ輪の中に入り、子供達と視線を合わせるくらいにして話すようにした。子供達の真剣な目つきが伝わってきた。わかりやすく言葉を伝えるために、言葉や話す長さを考えるのはとても難しかったが、私の言葉が伝わった時の子供達の「あ〜」という表情はとても嬉しく感じた。最後には普段どんな絵を描いたりしているのかとか、まるで休み時間に机を囲んでお喋りするような楽しい鑑賞の時間を過ごすことができた。

今回の旅ムサを通して、必ずしも絵画じゃなくても、対話型鑑賞はできるということがわかった。余計な心配はしなくても、子供達は作品の色々な部分を見て、わからないなりに感じ取ってくれていた。



## 邱筠雅 (キユウインガ)

建築学科1年

「対話型鑑賞のタネ」  
旅するムサビ in 台湾 2018 に参加させていただきありがとうございました。

私は武蔵美に入学した途端、多くの人の才能の海に飲み込まれ、まるで溺れたように息をすることすら辛かった。その頃の私は自分の存在価値を見いだせない恐怖に陥って、自分にしかできないことを見つけ出したいと願い続けた。その時に、旅ムサと出逢った。

きっかけは三代先生の紹介だった。通訳を通して自分の価値を証明してみたかった。

三澤先生から、「せっかく新しい美術教育の企画に参加するなら、通訳だけだと勿体無い」という助言いただき、春休み中に千葉県松戸市和名ヶ谷中学で行われた対話型鑑賞に練習を兼ねて参加し、ファシリテーターと、作者を体験してみた。

そして今回、台湾で通訳と作者を行い、対話型鑑賞を日本と併せて三つの立場から経験することができた。

私はみんなと逆で、海外バージョンの対話型鑑賞に参加してから母国バージョンの対話型鑑賞に入り込んだ感じだった。当日は、対話型鑑賞を台湾人自身が主催したらどんな光景が見られるのだろうと

今回のような表現をさらに飛躍させて、こんな表現方法もあるんだ、と子供達に伝えられたらと思う。

## 這

次我自身為創作者的身份参加了對話型鑑賞的活動。看到作品小朋友的第一个反應是「不是很懂」。我這次帶的作品是，像平面的畫跟立體物的組合。然後在作品的周圍有滾動的蠟筆和色鉛筆。看小朋友的表情，像是覺得作品中放了很多東西，不知道要從哪裡開始看起。

至今為止，我之所以沒參加過對話型鑑賞的原因是，一直覺得要參加對話型鑑賞的話一定要是繪畫作品。然而我想知道的表現方法是關於空間的而不是繪畫，所以沒有創作過隨時可以帶去的繪畫作品。

回到正題，關於這次的鑑賞我想定了主題「如果創作的角色可以從畫中飛出來就好了」，形式盡量接近繪畫，我做了一個空間，像是畫了作品的人存在過的空間。在學校跟小朋友借到了平常在使用的課桌椅。鑑賞活動開始大家圍著桌子，一開始因為不是非常了解所以沈默，但也只有在一開始而已。「是在游泳嗎?」「浮在水面上的嗎?」小朋友們的推理越是深入，大家的發言停不了。從各種角度碰著看蠟筆、戳戳看作品，還清楚的記得很多小朋友們伸出他們的手去接觸作品。有一個小朋友說「為什麼其他作品都掛在畫架上，這個作品卻是放在桌子上」然後有一個小朋友回答了「因為畫中的角色在睡覺啊」。我確信，當時小朋友們理解注意到作品周圍的空間了。

うつすらと(漠然と)想像していた。

最終目的は自発的に作品を見て欲しい。この思いに立ち返れば大切なものが見えてくる。

日本の子どもも台湾の子どもも、同じようにおしゃべりしながら芸術鑑賞をするのが初めてで、対話を通して友達言葉から視野を広げていったこともまた変わらなかった。

私は対話型鑑賞を行う目的として、「子どもたちに他者と意見を交換しながら芸術とのふれあい方を知ってもらい、次にファシリテーターがいなくても自発的に周りの人と対話型鑑賞を行うことができる力を身につけること」を期待していた。検討すべきところがまだ山ほどあると承知しているが、我々は対話型鑑賞のタネを子どもたちの中に蒔いたと考えてもいいのだろう。

## 對

話型鑑賞の種子

非常感謝這次有幸能參加「武藏美旅行 in 台湾 2018」。當初，在進入武藏野美術大學時的我，彷彿陷入了被名師才華的海洋，無法正常呼吸。看不見自己的存在價值，五里霧中的想要找尋只有自己才能做到的事。正是在這時，我邂逅了武藏美旅行。

起先是透過三代老師的介紹，得知了武藏美旅行正在物色翻譯人才，想要以翻譯來證明自己的我便這麼參加了這個活動。而從三

在創作者的談話時間裡，解說的時候為了能合到小朋友們視線，我進到由課桌椅圍起來的圓裡，小朋友們認真的表情透過眼神傳達出來了。為了想要用簡單明瞭的話去傳達，說話的長度和使用的語詞都必須去考慮到，雖然這並不是件簡單的事，當小朋友們理解到我想傳達的東西後，那種「原來如此!」表情讓我感到非常開心。到最後簡直就像是下課後的休息時間，大家圍在課桌椅周圍聊天，聊著像是平常我是怎麼樣畫作品的等等的話題，一起度過了愉快的鑑賞時間。透過這次的旅行武藏美 in 台灣，我了解到

不一定是繪畫的形式才能進行對話型鑑賞。不需要有多餘的擔心，小朋友們自會細看作品的各個部分，對於不懂的地方也能用心感受。有機會的話，我將汲取這次經驗，希望能傳達給小朋友們「原來還有這樣的表現方式」。

(松橋繪菜 空間演出設計學科二年級)



澤老師那裡得到「難得能參加這種美術教育的活動，只負責口譯是不是太浪費了?」的建議，我在春假時參加的舉辦於千葉縣戶松市和名谷中學的鑑賞會時，累積了作者和引導人這兩種角色的經驗。再加上這次的台灣行裡擔任了口譯兼作者，得以親身體驗了這三種角色。

從經驗上來看我可以說是和大家都相反，對我而言可以說是先經歷了外國版的對話行鑑賞再回到母國進行這場活動。我也暗自想像過，如果在台灣的這場對話行觀賞會是由台灣人主辦的話，會不會看到另一番不同的光景，使更多人理解呢?

然而，回到初來來審視次的活動，能發現一些重要的事。

無論是日本的孩子還是台灣的孩子，對他們來說這都是「第一次的一邊討論一邊面對藝術作品」。他們同樣能從朋友的發言中得到靈感，受到啟發。回到出發點來看，對我來說對話行鑑賞的目的只不過在於想要「讓孩子們透過和他人邊交換意見邊欣賞藝術的過程中，培養出以後的人生裡就算沒有引導人這個角色也能自發性地和身邊的人進行這樣對話型鑑賞的能力」。尚待改進的地方當然還有很多，但從這個中心思想出發，上述的孩子們的共同反應是不是能解釋成，我們已經成功地孩子們的心中下了對話行對話的種子了?

(邱筠雅 建築學科一年級)

### 1. ことばの「やさしさ」

シンプルな文で話す。短く区切って、通訳の時間をとる。事前に話す内容やキーワードを伝える。ことばにすると、まあ、なんてことのないことだが、このような配慮で通訳の負担はだいぶ変わる。事前に台湾の文化や歴史、あるいは簡単な中国語の挨拶を調べる。中国語で挨拶が入るだけで、子どもたちの緊張が少しほころぶ。

この二つのことが三年目を迎える旅むさ台湾で少しずつ定着してきたことは、外国語教育を専門とするべくにとつてうれしい変化だ。この二つの変化の根底にあるのは、他者に対する配慮だと思う。それは「やさしさ」と言い換えてもいい。近年、多文化化する日本において「やさしい日本語」がメディア等で注目を集めている。「やさしい日本語」は、阪神淡路大震災において外国人住民が避難場所や炊き出しなどの情報を得ることができなかったことで開発・研究が進み、普及した新しい日本語の形である。現在は、外国人集住地域を中心に公文書が「やさしい日本語」に書き換えられたり、NHKが「やさしい日本語」によるニュース配信を行っていたりするなど徐々に広がりを見せている。各自治

体や日本語学校でも日本人向けの「やさしい日本語」研修会が行われ、2020年のオリンピックにおけるボランティアにも英語に加え「やさしい日本語」による案内が期待されている。「やさしい日本語」は「優しい」と「易しい」をかけた、外国人にとってもわかりやすいシンプルな日本語のことである。それは、通訳をお願いするとき心がける話し方と通底している。何よりも大切なのは、相手が理解しやすいように話そうという気持ちだ。

対話的鑑賞が対話をその目的とするならば、相手への「やさしさ」を考えることが必要なのではないだろうか。「やさしさ」は、少し間違えると上から目線のように難しい。「やさしさ」と向き合い、「やさしさ」に悩みながら、相手に伝わることばを探すということをしなくても経験してもらえれば、言語教育の専門家としてぼくが同行している意義があったと言えるかもしれない。

### 2. ことばの「正しい」

意外だったのは、複数の日本人学生から日本語が上手になりたいという相談を受けたことだ。よくよく話を聞くと「正しい」日本語を身につけたいと言う。同様の相談を外国語科目履修相談などでも受けるようになった。「正しい」日本語とは一体なんだろうか？もし本質的な「正しい」がことばにあるとしたら、ぼくたちに対話はいらない。「正しい」ことを教えればいい。でも、ぼくたちは、それがどんなに危ういことか気づいている。「正しい」答えなんてないから対話型鑑賞は面白い。答えのある教育に対する強烈だけど「やさしい」アンチテーゼが対話型鑑賞なんだとぼくは捉えている。

だから、対話型鑑賞に参加する学生たちから「正しい」日本語を求める声があったことは少し意外でもあった。どうして「正しい」日本語を学びたいと思うのか聞いてみた。伝えたいことがたくさんあるのに、うまく伝えられないからという。なるほどと思う。その問題意識はいい。だけど、アプローチはちょっと違うと思う。価値観も背負っている文化も一人一人異なっている。「日本人」とか「台湾人」とかそんな簡単に括れない。一人一人がそれぞれの文化と歴史を生きている。それがことばというメディアで交差する。それが対話だ。そんなに簡単に伝わらない。ぼくだって、ことばを重ねても、重ねても、学生に伝わらないこと



### 學習語言這件事

#### 1. 語言的「溫柔」

用簡單的字句說話。縮短語句，分配口譯所需的時間。事先轉達內容概要及關鍵字給翻譯人員。說起來不難，但這份為了口譯的人考慮的心情確實能減輕他們很多的負擔。事先調查台灣的文化與歷史，或是簡單的打招呼。儘管只是開頭用中文打招呼就能些許緩和和孩子們的緊張。

這兩件事在今年已經是第三年的武藏美行旅逐漸被重視。這對以外語教育為專攻的我來說是件非常直得高興的事。在這兩個變化的背後能看到的是，為他人著想的心情。也就是「溫柔」。「簡易日文」等等的傳播媒體在近年來國際化的日本非常受到關注。「簡易日文」是為了在阪神淡路大地震時沒能達成的誘導外國人避難、發布野營地區消息等等目的而被開發研究至普及，可以說是目前最新型態的日文。現今已以外國人居住地區為中心，將正式文件更改成「簡易日文」、NHK用「簡易日文」播報新聞等等逐漸普及化。各自治團體和語言學校也舉辦針對對日對人的「簡易日文」研修會，2020年的奧運上也期待能看見英文再加上「簡易日文」的指南。「簡易日文」是「平易近人」乘以「簡易」，對外國人來說也是長好懂的單純的日文。這和為了口譯的人考慮的本質是相同的。簡單易懂的說話方式比什麼都來得重要。對話是鑑賞既然是以此為目的，那麼為了對方著想的這份「溫柔」便是應該的。這份「溫柔」稍微有個不慎很容易便會成了自以為的優越，感因此不好掌握。好好面對「溫柔」、煩惱如何展現「溫柔」、尋找適合對方的話語等等，只要在過程中經歷了這些，就能說是身為語言教育專家的我的同行是有意義的吧。

#### 2. 語言的「正確性」

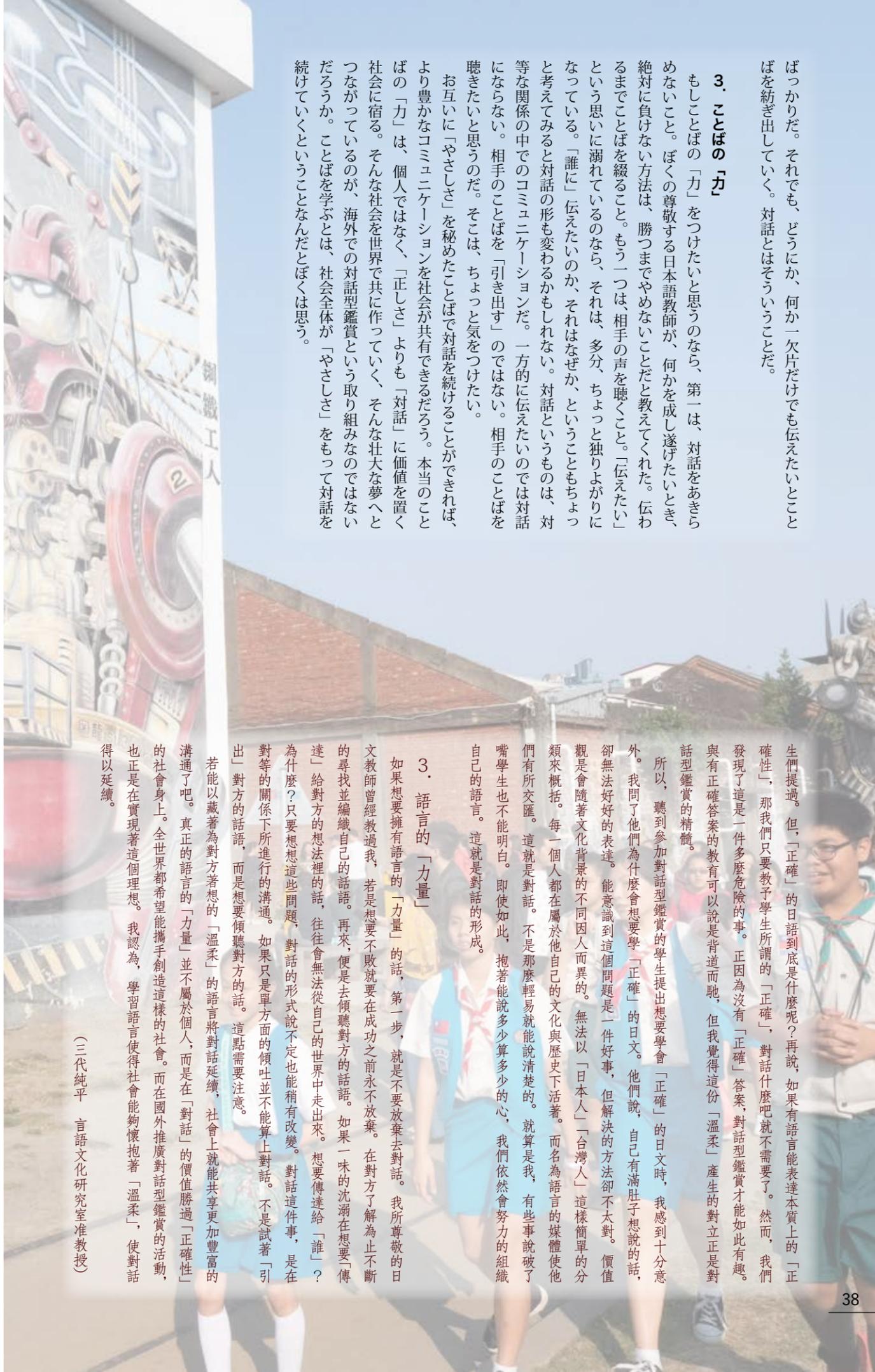
讓我意外的是，幾位日本學生找我訴說他們想要把日文說得更好。仔細聽會發現，他們想要的是掌握「正確」的日文。像是這樣的煩惱我也在其他的外語課上聽學

ばっかりだ。それでも、どうか、何か一欠片だけでも伝えたいことをばを紡ぎ出していく。対話とはそういうことだ。

### 3. ことばの「力」

もしことばの「力」をつけたいと思うのなら、第一は、対話をあきらめないこと。ぼくの尊敬する日本語教師が、何かを成し遂げたいとき、絶対に負けない方法は、勝つまでやめないことだと教えてくれた。伝わるまでことばを綴ること。もう一つは、相手の声を聴くこと。「伝えたい」という思いに溺れているのなら、それは、多分、ちよつと独りよがりになつていて。「誰に」伝えたいのか、それはなぜか、ということもちよつと考へてみると対話の形も変わるかもしれない。対話というものは、対等な関係の中でコミュニケーションだ。一方的に伝えたいのでは対話にならない。相手のことばを「引き出す」のではない。相手のことばを聴きたいと思うのだ。そこは、ちよつと気をつけたい。

お互いに「やさしさ」を秘めたことばで対話を続けることができれば、より豊かなコミュニケーションを社会が共有できるだろう。本当のことばの「力」は、個人ではなく、「正しさ」よりも「対話」に価値を置く社会に宿る。そんな社会を世界で共に作っていく、そんな壮大な夢へとつながっているのが、海外での対話型鑑賞という取り組みなのではないだろうか。ことばを学ぶとは、社会全体が「やさしさ」をもって対話を続けていくということなんだとぼくは思う。



生們提過。但、「正確」の口語到底是什麼呢？再說，如果有語言能表達本質上的「正確性」，那我們只要教予學生所謂的「正確」，對話什麼吧就不需要了。然而，我們發現了這是一件多麼危險的事。正因為沒有「正確」答案，對話型鑑賞才能如此有趣。與有正確答案的教育可以說是背道而馳，但我覺得這份「溫柔」產生的對立正是對話型鑑賞的精髓。

所以，聽到參加對話型鑑賞的學生提出想要學會「正確」的日文時，我感到十分意外。我問了他們為什麼會想要學「正確」的日文。他們說，自己已有滿肚子想說的話，卻無法好好的表達。能意識到這個問題是一件好事，但解決的方法卻不太對。價值觀是會隨著文化背景的不同因人而異的。無法以「日本人」「台灣人」這樣簡單的分類來概括。每一個人都在屬於他自己的文化與歷史下活著。而名為語言的媒體使他們有所交匯。這就是對話。不是那麼輕易就能說清楚的。就算是我，有些事說破了自己的語言，也不能明白。即使如此，抱著能說多少算多少的心，我們依然會努力的組織自己的語言。這就是對話的形成。

### 3. 語言的「力量」

如果想要擁有語言的「力量」的話，第一步，就是不要放棄去對話。我所尊敬的日文教師曾經教過我，若是要不敗就要在成功之前永不放棄。在對方了解為止不斷的尋找並編織自己的話語。再來，便是去傾聽對方的話語。如果一味的沈溺在想要「傳達」給對方的想法裡的話，往往會無法從自己的世界中走出來。想要傳達給「誰」？為什麼？只要想想這些問題，對話的形式說不定也能稍有改變。對話這件事，是在對等的關係下所進行的溝通。如果只是單方面的傾吐並不能算上對話。不是試著「引出」對方的話語，而是想要傾聽對方的話。這點需要注意。

若能以藏著為對方著想的「溫柔」的語言將對話延續，社會上就能共享更加豐富的溝通了吧。真正的語言的「力量」並不屬於個人，而是在「對話」的價值勝過「正確性」的社會身上。全世界都希望能夠攜手創造這樣的社會。而在國外推廣對話型鑑賞的活動，也正是在實現著這個理想。我認為，學習語言使得社會能夠懷抱著「溫柔」，使對話得以延續。

(三代純平 言語文化研究室准教授)

## 旅ムサ台湾がもっている意味

府中市立若松小学校 大杉 健  
(現・武蔵野大学教育学部教育学科)

武蔵野美術大生が自分の作品を子ども達の前で発表する。そして語る。子ども達はそれを見て素直なことばで見た思いを返す。

学生は、そのストレートな子ども思いにふれ、子どもは自分とそこまでは年齢が離れていない学生の表現にふれ、互いに意味のある活動ができるのではないかと始まった旅ムサの活動も今年で10年を迎える。私個人も旅ムサ第1回から関わり、途中、大雪で一回休校中止になったことはあったが、毎年関わる事ができてきた。そして、今回の台湾。この旅ムサのメンバーが自分の作品を手に、言葉や文化の異なる台湾の子ども達とどのような関わりが生まれるのか、大変興味があった。

### 〈旅するムサと台湾の子ども達〉

最初のコンタクトは、台湾の小学校4年生。メンバーが準備している時間帯は、小学生は休み時間にあたっていた。2000人はいるというこの大規模小学校の休み時間は、校庭も中庭も所狭しという感じだ。

高学年はバスケットをやり、低学年では柔らかなボールを蹴ったりして遊んでいる。ボール大好きな日本の小学生と同じ光景だ。

やがて休み時間も終わり、旅ムサの時間になる。やや、緊張しながらも授業会場の体育館に整然とグループ毎に並ぶ。男子女子の人数がグループよってかなり異なる。私自身が小学校の教諭をやっていることもあり、こんなところも気になる。後で担任の先生に伺ったところ、発言が出やすいようにメンバー構成をかなり考えたグループづくりだったようだ。

旅ムサリーダーの元気な中国語のあいさつから活動が開始。取り組みの概様の説明の後、各グループでファシリテーターを中心に対話型鑑賞が始まる。ここからの流れは、日本での取り組みと同じだ。はじめ、子ども達がやや固いかなという印象はあったがそのうちに、気がついたことを武蔵美生に話し出す子、友達とボソボソと話をしている子、声には出さないが作品をじっと見ている子などが現れ出す。言葉で会話をしようとする、通訳の人を通さなければ



ならないことはあるものの、日本の子ども達の動きと同じ、身振り手振りで答えてくる。この光景から子ども達の学ぶ力の確かさと、言葉や文化の違いを楽々と越えてしまう美術の力をしっかりと感ずることができた。

#### 〈教員研修会〉

一方、その後の教員側の研究会では、台湾の教育や美術のもっているベースの違いを考える機会になった。本日の旅ムサの取り組みに対しての驚きと感謝の言葉のあと、次のような同様の質問が多く出された。

「日本では、このように展開を子ども達にまかせるような授業はどこでもやっているのか」という日本の美術教育の動向に関したこと。

「この様な授業を行うとき、何どのような点に気を付けたらよいのか」という子ども自らが価値を創造しながら学ぶ教育手法についての質問。

日本の図工美術教育について、今回の旅ムサの授業を見ている台湾の先生方の眼差しにとても熱い思いを感じた。

校内の展示物や研究会での先生達との会話から見えてきたものは「変化への思い」のようにも感じた。「先生が手本（見本）を提示し、表現手法技術を教え練習を重ねて、習得する美術」から、「子ども自ら取り組みの中から価値を創造する学び」への変化を目ざしている姿だった。その変化のスタート地点が今回の旅ムサになっていると言いうこともできそう。

#### 〈国家教育研究院〉

今回の旅ムサでは、いくつもの訪問先が印象に残っている。その一つは、国家教育研究院である。ここでは、台湾の子ども達が受けている教育の概要を知ることができる。なかでも、教育院図書館で収集している教科書。直接子ども

國小的教師對這方面比較在意。後來問了導師後才知道這個編制是為了活躍小組氣氛所做的安排。

武藏美行旅の領隊用充滿朝氣的中文打招呼後開始了這次的活動。簡單的說明了流程後，各個小組環繞著引導著拋出的問題開始對話型鑑賞。這之後的流程大致上跟在日本的相同。一開始，孩子們雖然表現得有點僵硬，卻能看見有些孩子努力的想要與武藏美的學生說話，有些孩子開始和同學們小聲討論，也有些孩子靜靜地盯著作品什麼話都不說。雖然需要經過翻譯才能進行對話，但他們和日本的孩子們同樣，比手畫腳的來表達自己想說的話。從這裡可以看到孩子們顯著的學習能力，以及輕鬆地跨越了語言與文化的藝術的力量。

#### 〈教師研討會〉

隨後的教師研討會，則是探討台灣的教育和美術上步調的不同的好機會。教師們發表了對武藏美行旅所感到的驚奇與感謝之後，問了很多如下的問題。

「在日本，是否到處都進行著像是這樣，將上課的流程交給孩子們的教育？」這類關於日本美術教育發展方向的問題。

「在這樣的課堂上，比起孩子們發現了什麼，是不是更該著重於讓孩子盡早學到屬於創造的價值？」這種教育系統流程上的疑問，讓人感受到教師們熱切的態度。

從旁觀這次的武藏美行旅公開授課的教師們眼神裡感受到，他們對日本工藝美術教育的熱忱。從校內的展示品和老師們之間的對話裡感受到的是「對於變化的想法」。教育的態度從「跟在老師的示範之後，學生們重複練習技巧而學會的美術」到「孩子們自發性的鑽研後學會的創造價值」的變貌。這個變化的原點說是這次的武藏美行旅也不為過吧。

も達が手にして学んでいるものなので、台湾での教育の現状が様々な角度から見取ることが出来る資料である。日本と同じ、違うということだけでなく、どのような人間に育ってほしいのを感じさせられた場所だった。教育関係に進む学生だけでなく今後グローバルに活躍していく上で多くの学生にとって意義ある訪問だったと思う。

#### 〈宿題〉

子どもは柔軟な存在である。子ども達のビジョンは、作品としての鑑賞にとどまらず、今回の旅ムサの中の作者になったり、ファシリテーターになったり、それを見て先生であったりいろいろなものを感じて見ていたように思う。そして、そのことは、旅ムサに参加し運営した学生にとっても、それぞれにも様々な世界を見るきっかけになったと思う。これからの自分の制作、立ち位置、どのような社会の一員であるのか、また、親としてのPTAだったり…。結論は急ぐ必要は無く、時にふれ、考えるきっかけになれたらと思う。私自身としても、今回の旅ムサから、日本はアジアという世界でどのようにあたらよいのか考えてみたいと思う。

最後の印象に残った台湾の先生からの一言を記してきた。「私達台湾人は、大人も子ども日本のことをとても意識している。日本の皆さんほどの程度、台湾のことを日常的に気にかけてくれているのだろうか」

## 武

藏野美術大學の學生在孩子們的面前發表自己的作品，並詳述。孩子們在看到後將當下所想的單純的話語來回覆他們。學生能最直接的接觸到孩子們的想法，而孩子們能接觸到與自己年齡相近的學生的作品，武藏美行旅就是這麼一個雙贏的活動。細數今年已然迎來了第十年。我個人是從第一次的武藏

#### 〈國家教育研究院〉

我對這次武藏美行旅所拜訪的幾處留下了強烈的印象。其中一個便是國家教育研究院。在這裡可以概略的知道台灣的孩子們所受的教育。尤其是教育院圖書館的藏書。因為是孩子們正拿在手上所學的，這些資料讓我們可以用各種角度來分析台灣教育的現狀。不僅僅是與日本的異同，那個地方還讓我們看到台灣的教育想將孩子們培養成什麼樣的人。不只是想成位老師的學生，在今後全球化的社會裡對所有的學生來說應該都是非常具有意義的參訪。

#### 〈功課〉

孩子是十分柔軟的存在。孩子們的視野不會停留在作品鑒賞裡，他們會想像今天如果自己是作者，如果自己是引導者，如果自己在旁觀的老師會是怎麼看著這樣作品這件事情的。而這對於這次參加武藏美行旅的學生們來說也能啟發他們各式各樣的世界觀。今後的自己的創作、自己的立場、在社會上的定位、甚至作為家長、作為家長會的一員……。不必急於整理出結論，成為時而起起的契機就夠了。對我來說，也多虧了這次的武藏美行旅，開始思考日本在亞洲世界裡應該扮演什麼樣的角色，如何舉手投足。

最後附上一句印象深刻的來自台灣的老師的發言。「我們台灣人不管大人還是小孩都非常關注日本。而日本的大家在日常生活中是否有意識著台灣的時候呢？」

（大杉健 府中市立若松小学校／現：武藏野大學教育學部兒童教育學科）



美行旅開始，除了其中一年因為大雪而中止了，其餘的每年皆有參與。再來便是這次的台灣。我非常期待這次的武藏美行旅裡，學生們手握自己的作品，在語言及文化接意的台灣將迸出什麼樣的火花。

#### 〈武藏美行旅與台灣的孩子們〉

最初接觸的是台灣的國小四年級的學生。成員們的準備時間正逢小學生的午休時間，兩千人等級大規模的國小的校園在午休時間中庭與操場竟然顯得擁擠。高年級生們打著籃球，而中低年級生踢著橡膠球玩。喜歡球的一面和日本的小學生一樣。

終於，午休結束，迎來了武藏美行旅的時間。作為會場的體育館飄散著些許的緊張感，學生們分組後整齊的排好隊伍。男女人數每組不盡相同。我自己身為

